

# 青少年の「成人」意識に関するヒアリング調査報告書

令和4(2022)年2月

公益財団法人よこはまユース事業企画課

## 目次

1. 調査の概要 .....	3
(1)調査の目的 .....	3
(2)調査の概要 .....	3
(3)対象 .....	3
(4)期間 .....	3
(5)調査方法 .....	3
(6)質問項目 .....	4
(7)倫理的配慮 .....	4
2. 調査の結果 .....	5
(1)プロフィール(基本属性) .....	5
(2)あなたが普段の生活で、「成人」であることを意識する場面があれば、教えてください。 .....	6
(3)あなたにとって、自分自身が「成人」になったと実感したエピソードがあれば、教えてください。 .....	10
(4)「成人」する前と後で、あなた自身にはどのような変化がありましたか？ .....	15
(5)「成人」に対して持っていたイメージと現実に、ギャップはありましたか？ .....	20
(6)あなたが「成人して良かった」と感じていることがあれば、教えてください。 .....	24
(7)あなたが「未成年の方が良かった」と感じていることがあれば、教えてください。 .....	27
(8)あなたが「成人」して困ったこと、現在困っていることがあれば、教えてください。 .....	29
(9)これから「成人」する人に、どのようなサポートが必要だと思いますか？ .....	33
(10)成人年齢が「18 歳」へ引き下げられることについて、あなたはどのように感じていますか？ .....	38
(11)「18 歳成人」社会を迎えるにあたり、社会に期待することはありますか？ .....	43
(12) その他、ご意見やご要望などあれば、教えてください。 .....	47
3. 調査結果のまとめと考察 .....	51
4. 資料編 .....	55
(1)説明書 .....	55
(2)同意書 .....	56

# **1. 調査の概要**

## **(1)調査の目的**

2022年4月、民法改正によって成年年齢が現行の20歳から18歳に引き下げられます。法改正に関する啓発や消費者教育の取り組みが進む一方で、青少年自身が「18歳成人」という変化をどのように捉えているのか、「成人」に向けた準備や教育にニーズを感じているのか、など当事者の意識やニーズについては十分に把握できていません。

今後、「18歳成人」という社会的変化に応じた青少年育成施策の方向性を検討する基礎資料とするため、青少年の「成人」意識に関するヒアリング調査を実施しました。

## **(2)調査の概要**

横浜市内在住・在学・在勤および横浜市内で活動している20歳～25歳の青少年を対象に、「成人」に対する考え方や「18歳成人」という社会状況をどのように捉えているのか、支援のニーズを感じているかなど、青少年の「成人」意識とニーズ把握を目的としたヒアリング調査を実施しました。本調査の結果分析をもとに2021年度に追加のアンケート調査を実施予定です。

## **(3)対象**

横浜市内在住・在学・在勤および横浜市内で活動している20歳～25歳の青少年 11人

## **(4)期間**

2020年8月～2020年11月

## **(5)調査方法**

事前準備した質問項目による対面のヒアリング調査(1人60分～90分程度)

## (6)質問項目

◆基本属性(年齢・生活状況)
①あなたの年齢を教えてください ②あなたの現在の生活状況を教えてください
◆成人についての意識
③あなたが普段の生活で、「成人」であることを意識する場面があれば、教えてください。 ④あなたにとって、自分自身が「成人」になったと実感したエピソードがあれば、教えてください。
◆「成人」による変化
⑤「成人」する前と後で、あなた自身にはどのような変化がありましたか？ ⑥「成人」に対して持っていたイメージと現実に、ギャップはありましたか？
◆「成人」のメリット・デメリット
⑦あなたが「未成年の方が良かった」と感じていることがあれば、教えてください。 ⑧あなたが「成人して良かった」と感じていることがあれば、教えてください。
◆支援ニーズの把握
⑨あなたが「成人」して困ったこと、現在困っていることがあれば、教えてください。 ⑩これから「成人」する人に、どのようなサポートが必要だと思えますか？
◆「18歳成人社会」への問題意識
⑪成人年齢が「18歳」へ引き下げられることについて、あなたはどのように感じていますか？
◆「18歳成人社会」への期待
⑫「18歳成人」社会を迎えるにあたり、社会に期待することはなんですか？
◆意見・要望

## (7)倫理的配慮

本調査は以下の倫理的配慮のもとで実施しました。

### ①研究の対象となる個人の人権擁護

調査依頼時に調査内容・方法について説明し、同意を得た人に対してのみ実施します。論文等の研究報告は、発行前に内容を確認し、承認を得ます。

### ②研究の対象となる者に理解を求め、同意を得る方法

調査依頼時に趣旨を対象者に調査概要を説明します。論文等の研究報告は、発行前に確認を依頼します。

### ③生じる個人への利益及び不利益並びに危険性の予測

調査中の不快な感情の喚起の無いよう留意し、不可避の場合は調査を中断します。

## 2. 調査の結果

### (1) プロフィール(基本属性)

20歳 大学生	大学3年生。ひとり暮らし。横浜で生まれ育ち、現在は市外の大学に通っている。大学では化学を学んでいる。研究職に関心があり進学予定。コロナ禍で家にいる時間が増えたが一人で家にいても楽しくない。大学とアルバイトが中心の生活をしている。
20歳 大学生	大学3年生。ひとり暮らし。福祉関係・国際関係を学んでいる。高校卒業後、大学進学で県外へ。2年生で留学している間に成人していた。卒業後の進路はまだはっきり考えていないが、いま住んでいる場所とは別の場所に住んでみたい。
20歳 専門学生	専門学校3年生。家族と同居。横浜で生まれ育ち、現在も市内在住。公務員を目指して勉強している。横浜で活動する若者団体に参加して活動している。いろいろな人と関わることが活動の魅力。地域に貢献したいという思いが強い。
20歳 社会人	社会人3年目。家族と同居。高校卒業後2年間フリーターをしていたが、知り合いの紹介で今の会社で働くことになった。就労支援関係の仕事。飲食店のアルバイトも続けていて、週5~6で働いている。コロナの影響で、家で過ごすことが増えた。
21歳 専門学生	専門学校2年生。家族と同居。横浜で生まれ育った。小学校教員を目指している。卒業後は非常勤講師等で現場を経験してから、教員採用試験を受ける予定。
21歳 社会人	社会人3年目。ひとり暮らし。高校卒業時に正社員として就職し、児童養護施設を出てひとり暮らしをはじめたが、体調を崩して離職。現在はアルバイトで生計を立てている。自立した当初は家事や料理で苦労したが、最近は楽しいと思うようになってきた。
22歳 大学生	大学4年生。ひとり暮らし。横浜の高校を卒業し、現在は都内在住。卒業後は院に進学予定。性的マイノリティを支援するNPOや不登校支援などさまざまなボランティア活動に参加して、ボランティア三昧の日々を過ごしている。コロナで将来を再考中。
22歳 大学生	大学4年生。家族と同居。市外から横浜の大学に通っている。アルバイトやインターシップなど横浜で活動している。大学では環境・気象について学んでいる。研究職に関心があり、進学するか悩んでいる。
23歳 社会人	社会人2年目。ひとり暮らし。IT関係の企業で働いている。大学進学を機に横浜へ。大学生の時は教員志望。いまの仕事は3年でやめて、いずれは小学校の教員になりたいと思っている。
24歳 社会人	社会人2年目。家族と同居。医療関係の仕事をしている。一人っ子で親からも頼られているので実家を出たいとは思っていないし、経済的にもまだ一人暮らしは難しい。お金があれば貯金したい。
25歳 社会人	社会人3年目。ひとり暮らし。横浜で生まれ育ち、現在も市内在住。大学では経済学を学び、福祉の仕事をしている。大学では地域と大学をつなぐ活動に参加し、大学生のボランティア活動の企画・運営に関わっていた。その縁で現在の法人に就職した。

## (2)あなたが普段の生活で、「成人」であることを意識する場面があれば、教えてください。

主な意見は以下の通りです。

- 普段の生活ではほとんど意識しない人が多く、飲酒・喫煙の機会や契約するときに自分が「成人」であることを意識するという人が多かったです。
- 日常のさまざまな場面で「自己責任」を意識する機会が増え、親の言動からも「成人」としての責任を感じるようになったという意見がありました。
- 家事や家計への貢献を求められるようになって「成人」を意識したという人もいました。

### ア 飲酒・喫煙

「飲酒」「喫煙」を通じたコミュニケーションやコミュニティへの参加を通して「成人」を意識するという意見や、日常ではほとんど「成人」であることを意識しないが「飲酒」は「成人」を意識する数少ない機会であるという意見がありました。

#### 【ヒアリングでの意見】

- 飲酒・喫煙が合法っていうのは大きい。高校時代は「悪いことである」のは大前提で、飲酒喫煙しないとコミュニティに入れない文化があった。それが合法になって社会的に認められるのは、自分にとって大きな変化。飲酒・喫煙によってコミュニティがすごく広がる。喫煙所での情報交換や「コミュニケーション」みたいなもの。アルバイトでお酒を扱う仕事をしていることもあって、お酒の場で色々な話が聞けたりする。それがちゃんと認められることは良い意味で成人の特権だなと思う。未成年で飲酒・喫煙していた高校生の中には、やめたい子もいると思う。でもコミュニティ内で立ち位置を得るためのツールになっているから、アイデンティティを守るためにやっていたと思う。そういう人にとっては成人が大きな節目にはならないかもしれないが、自分にとっては成人して飲酒喫煙が「違法」から「合法」になることは大きかった。
- あまりお酒に関心がなかったが、20歳になって飲んだ時、「自分、20歳になったんだな」と思った。
- お酒とかその辺りのこと。専門学校はいろいろな年代の人が集まる環境。未成年も成人も一緒に食事に行ったりすると、その場でお酒を飲める／飲めないっていう違いは感じていた。
- 一番大きいのはお酒。学生時代はそんなに飲みに行くことはなかったが、気軽に「飲みに行こうよ」って言えるようになった自分が面白いなと思う。
- お酒が飲めるようになったけどすごく飲むかっていうとそうでもない。
- 友達と合法的に飲みに行ける。やっと飲めるんだ、人とごはんに行けるんだっていう喜びがあった。
- お酒を買う時に年齢確認されなくなったこと。20歳の誕生日に「お酒がちゃんと飲めるようになったね」と言われたこと。

## イ 契約行為

一人暮らしをはじめるときの賃貸契約やスマホ・携帯電話の契約を通して「成人」を意識したという意見、未成年では親(保護者)の同意が必要だった契約行為において親の同意が不要になったことを通して「成人」を意識したという意見がありました。未成年ではできなかったことができるようになった時に「成人」を意識したという意見が多くみられました。

### 【ヒアリングでの意見】

- 「引っ越し」で、わたしはすごく「成人」を意識したと思う。大学に入って、19歳ではじめて家を借りるときって、全部親についてきてもらわなきゃいけないし、全部親の同意が必要だった。次に引っ越した時は一人で大丈夫になっていた。それが嬉しかった。(親の同意が必要なのは)やっぱりわずらわしい。気持ちとしては、もう「大人」で大学に入って一人暮らしを始めるという自立したいタイミングなのに、そのタイミングで「え、まだ親の同意が必要なんだ…」ってなるのがめんどろだと思っていた。
- 一番成人を意識したのは「契約」。ローンを組んだり、携帯を契約したりする場面。19歳の時に携帯を水没させたことがあり、修理に出すのにも親の同意が必要だった。大学生でアルバイトしていてもお金はあったから、ある程度行動の自由がきくようになったタイミングにも関わらず、お金を使って何か契約するときは、親の監督や許可が必要なのは子どもにとっても親にとってもストレスかなと思う。
- 年金の手続きや家や携帯の名義など、契約の時に自分の名前が効力持っているっていうのが「うわ、成人だ！」と思った。別居中の両親から、20歳の誕生日に「サインしてほしい」と離婚届を渡された。成人した2人の署名があれば協議離婚できる。離婚届に署名しながら、「自分の名前ってなんか法的に認められている」「力があるぞ」と思った。家や携帯も母親の名義だったが、解約する時に面倒なので20歳になったタイミングで自分名義に変えた。
- 成人して一番良かったのは携帯の契約変更やWi-Fiの契約に親の承諾がいらないこと。引っ越しも親の承諾が要らない。いちいち親に報告しなくていいっていうのは自由。
- 成人じゃないとできないことってすごく多い。19歳までは保護者の同意が必要だったものが、一人でできるようになって、「あ～、成人したんだな」と感じた。できることが多くなった。留学で海外に行くときにも、大学から保護者の同意書を求められた。保護者が遠方に住んでいたので大変だったが、成人して楽になった。
- 20歳になると、契約に親の同意書とかが必要じゃなくなる。親にいちいち同意書とらないといけない面倒さが無くなったのは、「20歳、でかいなあ」と思う。親にも確認するが、基本的には「もう20歳だから自分で決めていいんじゃない？」という感じ。

## ウ 自分の行動に「責任」を感じる時

未成年のときは何かあったら親が助けてくれるという意識があったが、成人して「自己責任」を強く意識するようになったという意見、事故・事件を起こした時に問われる責任の重さを感じるという意見、自由になった代わりに責任が増えたという意見があり、日常のさまざまな場面で成人としての責任の大きさを感じているという意見がありました。

### 【ヒアリングでの意見】

- 何をするにも自分の責任になって「成人したんだな」と感じた。自分のやりたいことをやって、なにかあったとき、いままでは親が助けてくれた。成人してからは全部自分でやる。子どもの頃はそんな風に考えていなかったが、18歳、19歳になるにつれ、親から言われるようになり、自分も意識するようになっていった。いざ成人になってみたら結構大変。自分でやるのってやっぱり大変だなと感じる。
- 事故や事件を起こしたら怖い、というプレッシャーを感じる。20歳になって思うのは、「責任」が一番大きい。親に迷惑かけたくないという気持ちもある。運転してて事故を起こすとか、自分が飛び出してしまうとか、成人してから怖いことの方が多い。親からそれほど真剣な感じではないが責任がどうこう、みたいな話をされたことがある。
- 自由になった代わりに責任がすごく増大したと思う。事故を起こすなど、他人に迷惑かけるようなことをすれば基本すべて自分の責任になる。いままで問題を起こしたことはないが、成人して一層、他人には絶対迷惑をかけてはいけない、と思うようになった。友人と飲みに行って帰りが遅くなったときに「もう成人なんだから自分の責任で好きにしていよ」と言われることに自由を感じる一方、酔って迷惑をかけることや、自分の言動で他人を不快にさせてはいけないと強く思うようになった。責任を強く感じるようになったきっかけは、参加している学生団体の活動で子どもと関わるようになったこと。小学生から常にみられていると考えるようになり、自分がちゃんとした「大人」であることを示さなければいけない、と思うようになった。
- やっぱり責任が増えたことが一番大きい。仕事でも穴をあけないようにしないと、と思うと休めないし、アルバイトとは違うと思う。本当にひとつ一つの責任が未成年の時とは違うと思う。
- 家の契約なども自己責任。物件も全部自分で探した。なにをするのも自分の自由だけど、逆にいえば、なにをするのも自分の責任になる。親に頼ってられないので、契約書類もすべて自分で目を通す。「ちゃんとしなきゃ」と思うようになった。精神面での自立を感じる。おもしろさ半分、さびしさ半分。
- これまでもお酒を飲むことはあったが、自分が成人して、未成年と飲んじゃうと何かあったときに怖い、と思うようになった。
- 自分より年下の人たちと接するときに、「守ってあげなきゃ」という「責任」みたいなのは感じる時がある。「成人」としての監督責任みたいな感じ。一緒にいる時になにかあったら困るな、という感じ。

## エ 親の言動の変化を感じたとき

親からの自立を促す言葉や家計貢献を求める言葉に「成人」を意識したという意見がありました。

### 【ヒアリングでの意見】

- 20歳になって親の言動が変わった。長男ということもあるが、「自立していけ」という親からのメッセージを感じる。いままでは小うるさく言われてたことが、「お前、大人なんだから、しっかりしろよ」の一言で済むようになる。自分で考えて自分で動け、っていう部分が増えたと感じる。
- 親からは「成人したんだから家にお金を入れろ」みたいなこと言われた。それを聞いて「ああ、時代が時代だな」と思った。親の時代は高校卒業してすぐ働くことが普通で、お金は自分で稼ぐという意識があるのを感じた。

## オ 家計や家事を担うようになったとき

家事や家計を担うことを求められるようになって「成人」を意識したという意見がありました。

### 【ヒアリングでの意見】

- 家にお金を入れなきゃいけないし、家事も自分でやらなきゃいけない。食事もできるときは自分でつくるようになった。親は「社会人なんだから、それくらいできるようにならないと、今後ひとり暮らしする時も困るでしょ？」という感じ。食事づくりも、分量や必要な材料が分からないので苦労している。

## カ 特になし／その他

普段の生活では「成人」を意識する場面が少なく、年金の通知や成人式というイベントで意識したという意見がありました。

### 【ヒアリングでの意見】

- 成人してこれができるって嬉しい！ってというような出来事は特になかった。
- 20歳になったからといって、そんなに意識することはなかった。
- 普段の生活より、年金とか保険とか、そういうときに感じる。20歳になって、「年金払ってください」みたいな通知が届いた時に、「あ、わたし20歳か」と感じた。あとは、20歳になって親がかけていた「こども保険」から抜けたとき。
- 成人式には参加したが、県外の中高に進学したので地元の幼馴染が小学校で終わっていて、そこまで面白くはなかった。「とりあえず行っておこう」という感じ。
- 成人式自体より中学校の同窓会の方が思い出に残っている。比較的仲が良かった学年で90人位参加していた。成人式も楽しかった。

(3)あなたにとって、自分自身が「成人」になったと実感したエピソードがあれば、教えてください。

- 「成人式」や「誕生日」等のイベントで、親や周囲から「成人」として認められたことが「成人」を実感するきっかけになったという人が多くいました。
- 年金加入の通知を受け取ったことや年齢制限のあった仕事・活動に参加できるようになったことで「成人」を実感したという意見もありました。

## ア 成人式

「成人」になったと実感したエピソードとしては、「成人式」という意見が多数でした。イベント自体には意味がないと感じながらも「振袖を着る」「同窓会に参加する」など、成人式に関連するイベントや慣習を通して「成人」を実感したという意見がありました。

### 【ヒアリングでの意見】

- 成人式に出たときは人並みに成人したなど思った。
- 世の中のイベント的にはやっぱり成人式なんだな、って思う。成人式で振袖を着て、わーわーやって、みたいなイメージ。成人式には振袖着て行って、同窓会は行かずに友達とご飯を食べて帰った。家ではお祝いにお酒をもらった。
- やる意味あるのかな？と思うが、やることに意義があるんだと思って参加しました。行って、話を聞いて、さよならって感じだったから、成人式自体に多分意味はないのかなと思う。でも振袖を着てわいわいすることが楽しかった。同窓会もあったみたいだがお金がなくて参加できなかった。後から知り合いのインスタで様子を見て、懐かしい人もいたので行けば良かったなど思った。
- やっぱり「成人式」が大きい。成人式当日はまだ19歳だったのでお酒を飲んではいしゃぐこともなく、気持ちの変化は特になかった。
- 成人式には参加した。人が多くて、拡声器をもって叫んでいるような変な人がいてやばいなって思った。子どもの頃の知り合いで、連絡先も知らないような子に会えたのは良かった。中学校の同窓会は会費が高すぎて参加しなかった。
- 成人式は「大人になる節目」というより「お祭り」「イベント」という感じ。「お酒を飲もう」という雰囲気にもならなかった。

## イ 誕生日

親からの手紙やプレゼントを通して、「成人」を実感したという意見、親から成人として認められたことで「成人」を実感したという意見がありました。

### 【ヒアリングでの意見】

- 20歳の誕生日に、母から娘への手紙が枕元に置いてあって泣いた。ずっとカバンに入れて持ち歩いている。親からは「もう社会人だし、いつ家を出ていくか分からないから、いつまでも頼ってられない」「私もあなたから離れなきゃ」と言われた。
- 20歳のプレゼントとして、親からまとまった現金をもらった。金銭的自由は、自分がアルバイトでできるようになってすごく広がったが、親からお金をもらった経験は、金銭的自由よりも親に認められたような気持ちになって嬉しかった。
- 実感したのはやっぱり誕生日になった瞬間。「20歳になった！」というのと、翌日からお酒を買いに行ったりしても大丈夫なんだ、みたいな。

## ウ 親からのメッセージ・ことば

親から「成人」としての信頼や責任に関するメッセージを受け取ったことで「成人」を実感したという意見がありました。

### 【ヒアリングでの意見】

- 20歳になった時に親から「心配してないから」と言われて、「信頼」というか、親の庇護にあったのが、両親も大人として見てくれてる、みたいな感じがした。
- 親や周囲の人から、なにをするにも「20歳なんだから」「成人したんだから」と言われるようになった。休日にお昼まで寝ていることがあったり、帰りが遅くなる時に連絡し忘れてしまうと「社会人なんだから、ちゃんとしなさい」と言われる。「別にいいじゃん」と思うときもあるが、心配をかけることになるから連絡しなきゃいけないな、と思うときもある。
- 20歳になったとき、親から「好きにするのは良いけど、責任が付いてくるからな」と言われた。その後も誕生日等ことあるごとに念押しされている。一人暮らしを始めた時も、「一人暮らしはいいけど、その分責任もついてくる。責任を負っての自由だから」と言われた。正論だけど、そう上手くいくとは限らないな、と思う。いまの生活もいつか終わりが来ると分かっているが、まだ親に反抗したい気持ちがある。責任について具体的なことは言われていないが、家賃が払えなくなったときの違約金とか、そういう話だと思う。とりあえず、責任を負わされないようにがんばるしかないと思っている。高校卒業後就職して、体調を崩して仕事を辞めた時も、一人暮らしの家は何とか守った。実家で休んでいた時期は携帯やゲームも親に制限されて生活していて、それが続くのはちょっと嫌だなと思った。
- 成人式の朝、親から「今日から成人だ。実際に周りの目が変わるぞ」、「ひとりの大人として節度ある行動をしろ」と言われた。もう自分ひとりで考えて行動しろよ、という意味だと思う。いまでも親は近くにいるが、そういうことはもう言ってもらえない。さびしい気持ちもある。

- 親からはあまり言われてないが、一つの区切りとして「おめでとう」みたいなことはあった。環境がガラッと変わったわけではないのであまり実感がない。制度的にそのようにみられている、とは思う。

## エ 年金加入の通知

年金加入の通知が手元に届いたことで「成人」を実感したという意見が多数ありました。

### 【ヒアリングでの意見】

- 年金の通知が届いて、「ああ、大人になった」と思った。学生なので特例でまだ払っていない。猶予の仕組みがあることを自分で調べて知っていた。分からないことがあったら、できるだけ自分で調べた方がいいなと思っている。そう思うのは親の教育が大きいと思う。本当にどうしようもなくなったら親を頼っていいけど、そうじゃなければ自分でやった方が良いという考え方。
- 税金？年金？20歳になってから払うことになっているお金。いまは学生で払っていないが、通知が来たときは「あ～、これからずっとか…」ってすごくショックを受けた。卒業して社会人になったらリアルにお金がかかるんだな、自分で払っていかなきゃいけないんだなって思った。
- 国民年金の案内が来た時に「あ～、成人か…来たなこれ」というのはあった。20歳から保険料を支払うことは知っていたが、いざ書類を見たら「痛いな」と思った。仕事をやめたばかりで貯金もなく、お金がない時だったので「無理だな…」と思った。いまも納付猶予してもらっている。
- 年金の通知が届いた時。年金手帳が届いた時に「成人なんだな」と思った。

## オ 飲酒・喫煙

飲酒・喫煙が合法的に可能になり、飲酒・喫煙を通したコミュニケーションの場に参加できるようになったこと、「大人」と同じ行動ができるようになったこと、「飲みに行く」という行動が「成人」を実感するきっかけになったという意見がありました。

### 【ヒアリングでの意見】

- 20歳の誕生日に「解禁！」みたいな感じでお酒飲んだとき。
- 大学の先生と一緒にタバコを吸っている時や高校時代の先生とお酒を飲んでいる時。自分にとっての「大人」と同じ環境で同じ行動している時に「成人になったな～」と思った。
- 友人の中で20歳になったのが最後だった。20歳になったらお酒飲みに行こうよと言われて、誕生日に飲み連れていかれた。
- バイト帰りにお酒を買って家で飲むとか。成人したなっていうよりは、年をとったなって感じ。
- タバコ吸わないの？って聞かれることが増えた。
- 成人式の日にはじめてお酒を飲んだときにも、成人したなと感じた。

## カ 仕事や活動の広がり

年齢制限のあるアルバイトやボランティア活動ができるようになったこと、「社会人」として経済力が上がったことで行動の選択肢が増えたことで「成人」を実感したという意見がありました。

### 【ヒアリングでの意見】

- 20歳以上じゃないとできないバイトもあるので働ける幅が広がった。ボランティア活動や研修も、20歳以上が参加条件という場合もある。できることとか経験できることとか広がった。
- 社会人になってなにか新しいことをはじめようと思って登山をはじめた。道具一式を揃えるにあたって、人脈をつたって経験者に話を聞いたり、モノの良し悪しを調べたり、必要なものをばっと買えたり、知識や人脈、経済力が学生の時とは全然違うなど感じた。「大人になったな」と思った。
- 20歳になってすぐは実感がなかった。社会人として働きはじめてから、自分でいろいろ選択できるようになった。

## キ 契約

契約書に自分でサインするなど契約行為ができるようになったことで「成人」を実感したという意見がありました。

### 【ヒアリングでの意見】

- 契約書にサインしているとき。就職するときに「こういうことが決まりです」、「お給料がいくらです」という話を聞いて、成人というか、「社会人」だなって感じた。
- 契約手続きをしている時。

## ク 海外への渡航

海外へ渡航する際の契約に親の同意が不要になったことや自由の範囲が広がった経験を通して「成人」を実感したという意見がありました。

### 【ヒアリングでの意見】

- 海外に行った時に「あ、もう自分でなんでもできるんだ」って思った。楽になったと言えば楽になったし、「やばい、ちゃんとしなきゃ」とも思った。留学する前は未成年だったので手続きに親の同意が必要だったが、帰ってきたときは不要になっていて、「わあ、やった！」みたいな気持ちになった。

## ケ その他／特になし

「成人(20歳)」よりも18歳になったときの変化が大きかったという意見、成人式は形だけの儀礼であり当事者が求めていることとのギャップが大きいという意見、「成人」としての自覚があまりないという意見がありました。

【ヒアリングでの意見】

- 18 歳になった時の方が自由度は広がった印象がある。免許が取れるようになったり、アルバイトの選択肢が広がったり、行動の自由も広がった。18 歳で選択肢は増えたのに、成人するまでは親の同意が必要という制限がかけられた 2 年間だった。
- 自分はトランスジェンダー。18 歳から治療をはじめて 20 歳の頃には見た目も声を変化していた。成人式は中学校の同窓会みたいなもの。中学生当時は周囲にトランスジェンダーであることを話していなかったので、話が合わないと思って成人式には行ってない。成人式に対して「成人になるんだ！」とか、社会参画の第一歩などの意味合いは感じない。儀礼としても形だけだし、当人にしたら同窓会とか親孝行、親への節目、ファッションショーの意味合いになっている。社会が求めるものと本人たちが求めるものがだいぶ違うと思う。
- 20 歳の頃に親が病気になったことがきっかけで「介護」についてすごく考えていた。一人っ子なので、自分が介護できるのか？ 両親とも体を壊したら、一人で介護するのかな？ など悶々と考えていた。
- あまり自分が「成人」だと自覚して生きていない。
- 「あ、成人したんだな」って思ったくらいで、何にも変化はなかった。

#### (4) 「成人」する前と後で、あなた自身にはどのような変化がありましたか？

- 自己決定や行動の自由など成人の権利と責任への意識、自立への意識、お金の使い方など「意識」が変化したという意見が多くありました。行動面や経済的な自由が広がり、人間関係や人との関わり方も変化したという意見もありました。
- 社会からの評価や社会のイメージなど、自分と社会の関係が変化したという意見がありました。社会からの評価として、「成人」の価値が想像していたより重視されていないという意見もありました。

#### ア 自分の行動に対する責任感

責任感が強くなった、未成年までは親(保護者)に守られていたが今後は「成人」として責任を持たなければいけないという気持ちが強まったなど、自分の行動に対する責任感が増したという意見が多くありました。成人後は親が助けてくれない、他人に迷惑をかけてはいけないなど、「成人」としての責任を非常に重く受け止めている意見もありました。

#### 【ヒアリングでの意見】

- 自分の中で、親に頼らない・守られないで、なにかあっても親が責任をとってくれることもなく、ちゃんと自分で決めて、責任をとれるようにならなきゃと思うようになっている。
- 自分のことは自分でやらなきゃ、って意識がすごく大きくなった。 高校生まで周囲で一人暮らししている人はいなかったが、大学に入るとみんな一人暮らしだった。そういう大学生の話を聞いて、「あ、全部1人でやってるんだ、えらいな」、「なんか自分がはずかしいな」と思うようになった。親が家事をやってくれることも、それまでは「ありがとう」だったのが、「もう申し訳ないから自分でやる！」ってなったし、家賃として家にお金を入れるようになった。
- 自分の行動に責任を持たなきゃいけないって、ほんとにいまこの行動を正しいのか？と考えるようになった。 高校までは何でも言葉にしてケンカになって怒られる、という感じだったが、成人してからは、「いまこの言葉を言ったら人を傷つけるかな」と考えるようになった。親とのケンカも減った。意識が変わったのは兄の影響。兄がちゃんと責任を持った行動をしている姿をみて、私もそうでありたいと思うようになった。周囲から「成人したら親はもう助けてくれないよ」と言われても、高校生までは「ふーん、あっそ」という感じで流していたが、成人する時が近づくにつれ、だんだん実感して、やっぱりちゃんと考えないといけないと思うようになった。
- 成人してより一層、他人に迷惑とか絶対にかけられない、学校でもボランティアでも、忘れ物や時間の間違いをしてはいけないと強く思うようになった。 いままでそれほど大きな失敗をしたことはないが、将来、問題を起こしたらまずは謝罪すると思う。
- 自分が行動することに対してちゃんとしなきゃなっていうのは思う。
- 少年法が適用されなくなるのではないか。未成年での飲酒喫煙でのトラブルなど、これまでは少年法の中で教育対象だったことが10代でも即警察かな、と思う。

## イ 自己決定の度合い

自分で決定することが増えた、親に相談せず自分で決めて良いと思えるようになった、自分の考えをより体現できるようになったなど、自己決定の度合いや意識が高まったという意見がありました。

### 【ヒアリングでの意見】

- なんでも自分で決めるようになった。親に相談しなくて良いと思うようになった。遊びとか仕事とか、自分がやりたいことに関して誰かに迷惑がかかるってことを考えなくて良くなった。
- 自分の気持ちの変化が一番大きい。自分で決めていいし、責任もとらなきゃいけないけど、好きなようにやっていいと自分で思えるようになった。それはありがたい。
- 心理的に解放された。成人するまでは、親に許可を求めなきゃいけないから、親の「良い子ちゃん」でいよう、というところがあった。一人暮らしの物件を選ぶ時も親が気に入る部屋、親が「良い」としてくれる部屋を選ぼうとしていたが、成人して自分の考えをより体現できるようになった。自分が良いと思ったものを選べる、自分がやりたいと思ったことができる、そういう変化があったかもしれない。

## ウ 行動の自由の度合い

経済力が高まったことや契約ができるようになったことで行動の自由が広がった、契約に親の同意が不要になったことで親の意に反する自分の希望を実現できるようになった、出かける場所が変わったなど、行動の自由の度合いが高まったという意見がありました。

### 【ヒアリングでの意見】

- お金と契約に関することが私にとってはすごく大きい。この2つは行動の自由に密接に関わっていると思う。例えば、ローンを組みたい時に未成年で親との関係が良くないと実現できない可能性が高い。親に言えなかったり、親に言うことのハードルが高かったりすると「やらなくていいや」とあきらめることになる。
- 親の承諾がなくてもクレジットカードを契約できるようになったことはすごい大きい。海外旅行も自分の意志だけで契約できる。18～19歳の時はいちいち親からサインをもらわないといけなくて、少しめんどくさいと思っていた。自由が広がる半面、すべて自分で責任を持たないといけない。契約書もちゃんと読まないといけないと思うようになった。
- 親のサインがなくても契約ができるようになったのは大きいと思う。自分の意志で契約ができる。
- 20歳になって年齢確認されてもいいから出かける場所は変わった。
- 行動の制限は無くなったというか、自由に行動できるようになったなと思う。旅行に行きたいと思ったら自分でホテル予約できるし、徹夜で帰ってもなにも言われない。そういった意味で行動の自由は大きくなった。

## エ お金に対する意識や使い方

お金の使い方をちゃんと考えるようになった、将来に向けた貯蓄やなにかあったときのための貯蓄をしようという意識が生まれた、自立して衣食住を自分で確保するようになって金銭感覚が身についた、使える金額や使途が変わったなど、お金に対する意識や使い方が変化したという意見がありました。

### 【ヒアリングでの意見】

- お金の使い方を考えるようになった。高校生までは、全然考えずに使って毎月金欠みたいな感じ。成人してからは、ちゃんと計算して、ほんとに必要なかどうか考えるようになった。コロナでより一層、いつ、何が起こるか分からない状況になったので、何かあった時のためにお金を貯めておこうと思っている。携帯代は高校生の頃からずっと自分で払っている。アルバイトして稼げるようになるまでは携帯は持てないという家族の決まり。
- 自立する前は「衣食住」全部ちゃんと確保されていた。お小遣いや貯金も自由にできた。「貯金しろよ」と言われていたが、欲しいものを買って友達と遊んで、という感じだった。いまは自分で家を借りて、携帯代を払って、保険代を払って、いろいろお金がかかる。収入から必要な分を引いて、自分の好きに使える額を引いて、貯金を引いて…とやっていて金銭感覚が身についてきた。自分の好きなことは使えるお金の範囲内、飲みに行きたくても家賃とか生活費の方が大事だから我慢しながら、物の要る／要らないも考えられるようになった。値段を見比べて買い物するような体験も楽しいと思う。自分でやっている達成感がある。自分でやりたかったんだと思う。
- 金銭感覚も変わった。高校までは「遊び！遊び！」っていうのが頭にあって、バイト代を全部遊びに使うこともあった。20歳過ぎてからは将来のことを考えてちょっとずつ貯金始めたりしている。
- 大きく変わったのは財布に入っているお金の額。高校はアルバイトできなかった。高校と大学の違いは大きかった。成人は大学在学中なのでそんなに変化はない。年金の通知が来たりしてお金の価値をやっぱり意識するようになった。使う金額も増えたが、価値や大きさを感じるようになった。

## オ 自立に対する意識

将来の自立や親に対する子どもとしての役割を意識するようになった、自分で家を借りたい、将来のためという意識が強くなったなど自立に対する意識が変化したという意見がありました。

### 【ヒアリングでの意見】

- いままで以上に「自立」のことを考えるようになった。両親が離婚していて親に何かあれば自分が対応することになる。入院時など自分の名前が必要になる。社会的地位があって自立している状態にならないとダメだな、と考えるようになった。
- 大学を卒業したら自分で家を借りたい。いま住んでいる学生寮を借りるときは未成年だったので親の許可が必要だった。それがいまの夢。
- 「将来のため」という意識が20歳になってからより強くなってきた。自分で仕事を見つけて、働いていくっていう意識が強くなった。20歳になった瞬間は「よっしゃ、お酒飲める！」としか思っていなかった。意識が変わるきっかけがあったわけではなく、20歳になって徐々に変わっていった感覚。

## カ 人間関係

大学生になってさまざまな活動に参加するようになり、同年代以外との関わりが増えたなど、人間関係が変化したいという意見がありました。

### 【ヒアリングでの意見】

- 大学に入って同年代と関わる機会が少なくなった。NPO や若者団体などいろいろな活動に参加するようになって関わりの幅が広がった。ほとんどが年上の大人。テレビや YouTube を見ないし、同年代に誇れる趣味がないので話が合わない。「趣味なに？」って言われたときに悩まずに言えるような趣味がない。意識的に年代の異なる人と関わろうと思っていた。年代が違う人とは趣味がなくても関わりやすい。きっかけは高校時代に大学の講義を受けて学べるプログラムに参加したこと。他校の生徒や大学教授と関わった経験が大きかった。
- 人間関係は変わったかなと思う。高校生のときは大人数でワイワイするのが好きだった。いまは少人数で会う方が好き。大人数で騒いでると年齢が低くみられるって思うのかもしれない。
- 喫煙する人と関わるのがちょっとだけ多くなった。

## キ 人との関わり方

交友関係の広がりが必要だと思うようになった、成人している人と「成人同士」という意識で関わるようになった、家族との関係性が変わったなど、人との関わり方が変わったという意見がありました。

### 【ヒアリングでの意見】

- 根本は変わってないが、こうやって接した方がいいのかな？みたいに「接し方」が変わった。高校の頃は友達とかいらないうると思ってたが、いま思えば少しくらい交友関係は必要だなと思う。いろんな人を見ていて、「人間関係って広い方がいいのかな」と思うようになった。高校生の頃は知らない間にずけずけ言っていたけど、高校卒業して働きはじめてから言っちゃいけないことの基準を気にするようになった。上司にはこれを言っちゃいけないとかすごく気にするようになった。学校にも先輩／後輩はあるが、社会に出るとレベルが違う。気を遣わないといけない。
- 成人と接する時に自分も同じ「成人」なんだなって意識するようになった。未成年の頃は成人と未成年のちがいを感じていて、なんとなく大きく見えていた。
- 親と外でお酒を飲む機会が増えた。家の中で話さない同性同士の話。なんで結婚したの？どうやって結婚したの？など、学生するときには話さなかったようなことを親と話すようになった。

## ク 社会からの評価

「10代」の価値がなくなったことに焦りを感じた、10代の頃とは社会からの見方が変わった、など社会からの評価が変わったという意見がありました。

### 【ヒアリングでの意見】

- 「焦り」はすごく強くなった。20歳になったときの「なっちゃった感」はすごい。10代は何をやっても

「10代なのにすごいね」とほめられた。20歳になって「10代の価値」がなくなったことに焦りを感じていて、いままでと同じことをやっても評価されない、と考えるようになった。

- 10代でなにもしてなくても「自分探し」と思われるが、20代で何もしていないと急に「ダメ！」となる。社会の見方が違うと思う。

## ケ 社会に対するイメージ

働きはじめて色々な人と出会ったことで社会に対するイメージや考え方が変わった、という意見がありました。

### 【ヒアリングでの意見】

- 高校卒業して働きだした人とは違う部分があると思う。20歳になりたての頃は「お酒で失敗しないように」とか「犯罪したらニュースで顔が載る」とか、そういう抽象的なことが大きかった。働きはじめてからは小さな行動ひとつひとつに責任を問われることになる。社会人として社会に出るかどうかが変化の要因かなと思う。そういう意味では、20歳になってからいままで精神的には大きく変わった。性格は変わらないが、自分の考え方や社会に対するイメージは変わった。いろいろな人との出会いを経験したことで、変化したと思う。

## コ その他／特になし

「未成年／成人」よりも「学生／社会人」の違いが大きい、大学生までは経済的に自立していなかったのであまり変化はなかった、時間の使い方が変わった、意識はしているが生活は変わっていない、自分自身は変わっておらず制度として分けられているだけなどの意見がありました。

### 【ヒアリングでの意見】

- 生活や環境の変化は「成人」というより学生／社会人の違いが大きい。大学生で20歳になったのであまり変化はなかった。
- 大学生の時は学費も家賃も親に払ってもらっていた。本当に経済的な意味での自立はやっぱり「社会人」になってからで、年齢としては22、23歳くらいだと思う。
- 意識はするけど生活がガラッと変わったわけじゃないから気持ち的には同じ。
- 自分の中では19歳と20歳でなにも変わってないと思っている。急に責任が増えるだけ。自分自身そんな変わってない。ただ分けられているだけだと思う。成人じゃないとできないことを成人前にしちゃった。やっていたことが合法になったな、という感覚。
- 成人したとき大学生だったので、すぐにはそんなに変化はなかった。社会人になって、ひとつひとつの行動において、人に迷惑をかけないようにしなきゃ、と思うようになった。夜遊びやお酒も次の日が仕事だったらほどほどにするなど、行動面も精神面も変わったと思う。
- 時間の使い方、優先順位のつけ方。就職した会社がブラックだったので、自分に関することの優先順位がとても低くなってしまって、自分の生活は二の次になってしまった。いま思えば「自分」と「会社」の優先順位が同じくらいだと良いのだろうと思う。

#### (5)「成人」に対して持っていたイメージと現実に、ギャップはありましたか？

- 経済的自立の度合いや行動の自由が想像していたより広がらず、子どもの頃に持っていた「大人」イメージと「成人」の現実にギャップを感じているという意見がありました。
- 人間関係やコミュニティが想像していた以上に広がり、さまざまな経験の機会をもつことができるようになったという意見がありました。
- 思ったよりも「成人」であることが重視されていないと感じるなど「成人」の価値にギャップを感じたという意見がありました。

#### ア 人間関係・コミュニティの広がり

大学や会社を通してコミュニティが広がった、成人して社会に出るようになって知らない人に会う機会が増えた、思っていた以上にいろいろな経験をする機会をもらっているなど、人間関係やコミュニティの広がりにギャップを感じたという意見がありました。

##### 【ヒアリングでの意見】

- 大学の友達や会社の同期など、親の知らない場所で社会的コミュニティができてきた。ひとりの女性としての「世界」がある、自立できている、ということは自分が思い描いていた「大人」に近づいている実感がある。
- 知らない人にかつた人に会う機会が増えてきた。成人して、自分が社会にどんどん出ているからなのかなと思う。いままでは知っている人の中で生きてきた。そのような変化は考えてなかった。
- いろいろな経験という意味では思っていた以上にやらせてもらってるイメージはある。

#### イ 経済的自立の度合い

20代半ばは経済的に自立しているイメージがあった、しっかりしているイメージがあったが全然しっかりしていないなど、経済的な自立の度合いにギャップを感じたという意見がありました。

##### 【ヒアリングでの意見】

- 経済的自立という意味では大きなギャップがあった。自分のイメージでは、大学卒業後就職して、同じ会社で働いていけば25歳くらいには仕事に慣れて落ち着いてきて、30歳頃には貯金もぼちぼち貯まって、親になにかあっても多少は助けになれるという姿をイメージしていた。現実とはすごくギャップがあって、焦っている。
- 経済的に自立しているイメージだったが、全然していない。親から大学まではお金を出すとされている。いま親からの経済的支援がなくなったら生活できないので、そういうところは全然だなどと思う。
- 「しっかりしてる」、「自立してる」みたいなイメージがあったが、全然自立していないし、しっかりもしていない。気が付けば成人してから4年経っていて、もう衝撃しかない。

## ウ 「大人」像とのギャップ

20歳はもっと「大人」だと思っていたがそうではなかった、子どもの頃の20歳はもっと大人っぽくみえていた、もっと社会・政治・経済について理解できるようになっていると思っていた、もっと働いているイメージがあったなど、子どもの頃の「大人」像と現在の自分にギャップを感じているという意見がありました。

### 【ヒアリングでの意見】

- 20歳はもっと「大人」だろうと思っていたが、実際は全然「大人」じゃなかった。大人像って、小さい頃は一番身近な親の姿で、その次に学校の先生かなと思う。子どもの頃は必然的に親の姿を追いかけていたが、中学生、思春期になってそこを脱していく。その先に親の知らない世界ができてくるというのが「大人」になった感じがする。中学生のときに会った女性の先生がいて、かっこよくて憧れだった。自分もああいう大人になりたいと思っていたかもしれない。
- 実際に成人になってみると、あまり変わらない。小学生の頃にいまの自分と同じ年齢だった人と比べると全然イメージが違う。もっと大人っぽく見えていた。自分の「大人像」に近づくために、ちゃんと教養や知識を身につけることが大事だと思う。色々な本を読むなどイメージに近づけるように模索している。成人になってできるようになることや意識の持ち方について、ちゃんと学べる機会がない。
- もうちょっと社会のことにアンテナを張ってるイメージがあった。政治や経済についてもちゃんとわかっているようになっていた。実際は日本のことも全然ちゃんと理解していない。こんなことで大丈夫かな？と思う。イメージに全然近づいていない。近づくための具体的なことも、選挙に行くこと位しか思いつかない。大人になったら自然と社会の仕組みを理解するものだと思っていたが、そんなこともなく、「なんでだろう？」と思ったことを自分で調べないと身につかないのかなと思う。知らないことが多すぎる。わからないことは親に聞くと教えてくれるが、どこで学んだのかな？と思う。
- 20歳ってすごく「大人」のイメージがあったが、実際は思ったよりもぬるっとした。小学生の頃は成人したら、結婚して、家買って、車買ってる、「ザ・大人」みたいなイメージがあった。実際は「結婚」への意識もそんなにない世代だし、「さとり世代」というか、家とか車とかはちょっと古いよね、みたいな雰囲気。子どもの頃の「大人」像とは全然違った。
- 大人はずっと仕事しているイメージ。親を見ても、街中を歩いても、みんな働いてるなって思っていた。コロナの影響でいまはほとんど学校に行っていないくて、バイトばかりしている。教科書も読まないし、毎日同じことを繰り返している。
- めっちゃ仕事するイメージ。「仕事のできるカッコイイ大人」。考え方・行動・服装・身なり・しぐさとかへの憧れ。言葉遣いが丁寧な人は「大人だな」と思う。そういう意味で「かっこいい大人」になりたいという憧れはずっとある。そのイメージに対して、いまの自分はまだまだだと思う。大人になると経験や場数、どれだけ人と関わってきたかで成長度合いが変わってくる。社会人としてもうちよ

っと頑張らないと、と思う。自分にはまだ甘い部分があると思うが、そう思っているうちは「子ども」かなと思う。例えば、資格の勉強や早起き。自分に厳しくできることが「大人」というイメージ。

- もっと「大人」なイメージだった。スーツ着てバリバリ営業して、みたい。全然そんなことなかった。
- 仕事ができるキャリアウーマンというイメージ、そうなりたかったなというのはある。一人暮らしして、仕事して、遊んで、という感じ。いまは一人暮らしで好きなように暮らしているところはイメージに近づけている。あとは仕事ができればいいなと思う。

## エ 「自由」の度合い

もっと自由でなんでもできると思っていたが実際は違った、大人になっただけではどうしようもなく、自分がどう働いて成長するかが重要、など自由の度合いにギャップを感じているという意見がありました。

### 【ヒアリングでの意見】

- もっと自由になんでもできる、やりたい放題みたいなイメージだったが、実際はそうでもなかった。働かないとお金がないし、そんなにみんなで飲みに行ったりもしない。コロナの影響もあるけど想像とは全然違った。
- イメージはやっぱり「自由」だと思っていた。自分の欲しいものを買える、帰りが遅くなっても何も言われたい、どこでも旅行へ行けるなど、大人になるとすごく「自由」なんだと思っていた。実際は大人になっただけではどうしようもなく、自分がどう働いて、成長していくかが重要だと思う。

## オ 「成人」の価値

社会は思ったより「成人」を重視していないことに気づいた、など「成人」の価値についてギャップを感じたという意見がありました。

### 【ヒアリングでの意見】

- 「もう成人したんだから」という人もいるし、「最近の若いの」でくる人もいる。イメージとしては20歳になった日から「もう成人なんだから」と言われると思っていたが、案外大人は「20歳」を重視していないことに20歳になって気づいた。「成人したんだから責任もってやりなよ」と「成人したからってなんでもできると思うなよ」の2つの目線があるのは感じる。30歳はある程度責任を持って自由にやることを認められている感じがするが、20歳はその狭間。「子ども」でいることを求められる時と「大人」であることを求められる時があって結構大変。

## カ その他／特になし

「成人」と「大人」は違う、父親・母親が理想の大人であり目指す姿になっている、仕事をして経済的に自立することが目標、そもそも成人のイメージがなかったのがギャップもない、などの意見がありました。

【ヒアリングでの意見】

- 「成人」と「大人」は違う。「成人」は法律上の区切りだが、30歳で子どもっぽい人もいる。自分の行動にちゃんと責任を持てる人が「大人っぽい」と思う。寛大さ、人の話を聞けるのが「大人」のイメージであこがれる。「成人」になったからって「大人」としての責任感を持てるわけではない。
- 自分の父親が一番理想の大人像。仕事においては職場の先輩。父親はとにかく家族が大事で大好き。平日も18時には家に帰っているし、土日は休み。毎日家族とご飯を食べてコミュニケーションを欠かさないし、すごく「良い父親」だと思っていた。そこは学びたい。
- 身近な大人で、こうなれたらと思っていたのは母親。母親だけは尊敬しているし憧れている。なんでもできるし、女性としても、母親としても、社長としてもできている。すごい人だなんて思う。
- 10年後は、仕事でそれなりの役職や年相応で求められることはしっかりできる大人になりつつ、「こうなりたくない」って思われぬような大人にはなっていたい。もし家庭を持てるならば、家族は大切にできる、あとは何事も楽しいって思う気持ちは忘れないような大人、仕事も家庭も楽しいと思えるような大人になれたらなと思う。
- そもそも「成人」ってこんな感じということイメージしていなかった。ギャップはあまり感じない。24歳という年齢に対して、大きな人生設計の中で「まだここか！」みたいな意識はある。
- なにも変わらないだろうと思っていた、実際変わらなかったので特にギャップはない。自分がなりたいた大人像はポジティブな人。何事も前向きに取り組んでがんばれる人になりたい。
- 30代のイメージはまず仕事をしていること、それなりに稼いで、それなりの家に住んで、という感じ。40代はもっと自立してほしい。自立は生活保護を受けないレベル。子どもが欲しいと思わないので、30代と同じ生活水準で生きていけたらと思う。大学入学までは子どもの頃のイメージに近づいているが、その先は難しいなと思う。将来特にやりたいこともなく、親に相談してみたことがあった。親から自身の職業について「楽しくないからやらない方がいいよ」と言われたが、職業の中では自分に向いていると思っている。
- 20歳は学生だと思っていたのでイメージと乖離していない。働きはじめたらまずは仕事を優先して、少しでも組織や社会に貢献できる人間になりたいと思っている。30代は仕事が順調なら旅行や、結婚もできたらいいなと思う。抽象的だけど「普通の社会人」になりたいと思う。「普通の社会人」は仕事をちゃんとこなして、その上でボランティアや地域の町内会活動などに参加しているイメージ。父親のような会社のことを家に持ち込まない、「公私」のけじめをつけられる大人になりたい。小学校の頃の先生のような誰に対しても親切にできる人間になりたい、という気持ちもある。法律に反しないなら何をやってもいい、という考えは絶対にしたくない。
- もうちょっと成人の実感があるかと思っていたが全然なかった。成人式が区切りのイメージだったが、成人式に出られなかったので、区切りがなくて実感が持てないのかもしれない。

## (6)あなたが「成人して良かった」と感じていることがあれば、教えてください。

- 成人したことで自己決定できることが広がり、自分自身の行動に責任をもてるようになった、信頼されるようになったことを「成人して良かったこと(=メリット)」として捉えている、という意見が多くありました。
- 活動範囲が広がったことや飲酒・喫煙行為が合法的に認められるようになったことを日常的に感じるメリットしてあげる人もいました。

### ア 「成人」として信頼を得られるようになった

「10代」というフィルターがとれて発言や発信内容自体を見てもらえるようになった、「子ども」として見られることがなくなったなど、「成人」として信頼を得られるようになったことが良かったという意見がありました。

#### 【ヒアリングでの意見】

- 未成年で発信していると「10代なのにすごい！」と見られることが多かった。成人してからはそのフィルターがとれて、ちゃんと発信内容を見てもらえるようになった。「成人」というだけで一定の信頼を得られる。そこはすごい良かった。「10代」の価値、10代ブランドがなくなったのは残念だけど、未成年に対する「囲い」みたいなものもなくなった。18歳と22歳を比べると22歳の方が信頼してもらえる。年齢のラベルは大きい。
- 「子ども」として見られることがない。NPOの活動で「学生」というフィルターで見られていることはあるが、「子ども」扱いされるようなことはない。相手の話し方も違う。未成年の大学生メンバーと比べると「守られ方」が違う。「高校生だから…」というのがなくなって、ちゃんと個々人として見てくれる感じがある。周りの意識も変わってくる。
- 「何歳？」って聞かれた時に「20歳」と言ったら、「10代じゃなくて良かった」と言われたことがある。周囲の見方として、「成人」がひとつの区切りとしてあるのかなと思う。

### イ 活動範囲が広がった

成人して行動の制限がなくなった、自分の署名でなんでもできるようになった、ボランティア活動などさまざまな経験に参加して物の見方が広がったなど、活動範囲が広がったことが良かったという意見がありました。

#### 【ヒアリングでの意見】

- 高校生までは行動を制限されてたけど、成人してからは行動の制限がなくなったことは良かった。出かけるとか、ちょっと遠出することへの制限があった。
- 自分の署名捺印があればなんでもできる。行動範囲も広がるし便利で良い。
- できることが多い、行けるところも多い。
- 学生生活やボランティア活動などいろいろな経験、自立した経験、人とのコミュニケーションを通して、いろいろな「見方」ができるようになった。それが一番大きい。いろいろな人と接する機会を

もらって、「あ、そういう考え方があったんだ」とか、「こういう活動があるんだ」とか経験することができた。高校生の時よりも色々な方向から考えるようになった。活動を通して、見知らぬ人にプレゼンする機会をもらって、自分の考えを発表したときに、「こういう風に思った」「共感できた」と言ってくれた参加者がいて、「あ、そうか」となることもあった。20歳になるまで経験したことがなかった。成人して、自分から行動しようと思うようになったし、行動したことで幅広い年代の人と関わったことは結構良かった。

## ウ 自分の責任で決定できることが増えた

自己の責任において自分で考えて決定できることが増えた、「自由」が大きくなったなど、自己決定権が広がったことが良かったという意見がありました。

### 【ヒアリングでの意見】

- 決定権が増えたこと。何事も自己責任だけど、自分でしっかり考えれば何を選んでもいいんだっていうところ。転職しようと思えばできるし、周りになにか言われても最後に決めるのは自分自身。それこそ「自由」。子どもの頃よりも自由だと思うことは多い。新しい趣味を始める時も、仕事の休みを決める時も自由。20歳頃までは普通の大学生で大きな目標があるわけではなかった。活動を通して今の職場の先輩と出会い、色々な人とつながって、色々な人の話を聞いた。良かった話、悪かった話、後悔した話などを聞いて自分も新しいことをやってみよう、と思うようになった。いろいろな経験を通して、責任は重いけれど「やるからには本気でやろう！楽しまなきゃ損」という考え方になった。そこが転機で、自由な方、自己決定権の高い方を選ぶ意識になったのかなと思う。
- 「自由」が大きくなったのが一番大きい。あとは学校の先生や両親から「もう大人なんだから」と言われるが、自分自身は信頼されていると感じて嬉しい。しかし、人によっては自分に押し付けられていると感じる人もいると思う。「自由」と「責任」の関係を理解している人が少ないのでは。「権利」が増えればその分責任も増えるのが道理だと思う。教育でも「自由」だけではなく、「責任」についても教えた方が良さそう。社会人として働くことで、そういった考えがもてるようになると思う。仕事以外の私生活でも社会貢献や無報酬で活動することで「人間性」が磨かれると思う。

## エ 飲酒・喫煙ができるようになった

お酒を飲めるようになって世界が広がったなど、飲酒・喫煙ができるようになったことが良かったという意見がありました。

### 【ヒアリングでの意見】

- お酒を飲めるようになったのは大きい。世界が広がるひとつの手段だと思う。バーで知らない人と話をするような感じで「人との接点」を生むツールのひとつがお酒。大学生はサークルで集まって飲んでるイメージがあるが、自分はそういう大学内のコミュニティよりも学外でやりたいことがあったので、ひとりでお酒を飲みに行くようになった。
- 飲酒・喫煙が合法になったのは大きい。

- 居酒屋で年齢確認をされたときに堂々と対応できる。

### オ 責任をもつことができるようになった

自分の行動に責任をもてる／責任をもたせてもらえるようになったことが良かったという意見がありました。

#### 【ヒアリングでの意見】

- 未成年の時は「責任を持たせられない」という理由で出来ないことがあった。成人して、良い意味で責任が持てるというか、社会から責任を持たせてもらえるようになった。責任を持たなきゃいけないという気持ちもある。成人して、責任を持てるからできることが結構ある。

### カ 特になし

#### 【ヒアリングでの意見】

- あんまりない。成人しているが学生で実家暮らしなのであまり自分の中で変化がない。
- 成人して良かったことは別がない。

(7)あなたが「未成年の方が良かった」と感じていることがあれば、教えてください。

- 未成年のときは自己決定の機会や行動の自由が制限されていた反面、自分が引き受ける責任が軽くて心理的に気楽だった、経済的にも生活面でも面倒をみてくれる保護者がいることで「やりたいこと」「好きなこと」に時間やお金を使うことができた、「10代であること(=若さ)」が社会からポジティブに評価されていた、という意見がありました。

#### ア 責任がなくて気楽だった

未成年の時は自由がない代わりに保護者が責任をおってくれるという気楽さがあった、知らない・できないが許される環境があった、いろいろな意味で守られていたなどの意見がありました。

##### 【ヒアリングでの意見】

- 未成年の時は行動の自由はなかったが、基本的になにをやっても最終的には保護者が責任をとってくれる、という気楽さがあった。成人して自分自身がそこまで気負っているわけではない。
- 「知らない」「できない」が許される。「そんなこと知ってる」と思う時もあるが、知らない時には「知らないから教えてください」と甘える余地があった。知らないことを前提にしてくれて居心地が良かった。
- 良くも悪くもレールの上を走っていた。いろいろな意味で守られていた。契約手続きも、親がやっている姿をみて、「こうやってやるんだ」と学ぶことができた。勉強の時間だったのかなと思う。
- 学生時代のミスはあまり他人に迷惑かけることはなくて自分が困るだけ。成人になって働くようになって、自分のミスが会社の責任に直結してくることを実感している。「未成年」って守られていたんだなど実感した。仕事でミスして「やっちゃった！」となるが、やっぱり自分の責任だから、と受け止める。
- 未成年のときは「用意してもらえた」と思う。ごはんや洗濯、本当になんでも用意してもらっていた。責任が軽い。社会人になって目標も自分で見つけないといけない。何を勉強するか、どの資格をとるか、高校・大学もとりあえず行かせてもらえる。親は親身になってくれて「大丈夫？」とよく聞かれていた。進学先も「おまえだったらここじゃないの？」と一緒に考えてくれた。良い面も悪い面もあるが、用意してもらえるのは楽だった。
- 未成年とお酒を飲むことになったら、必然的に自分が責任をとらないといけない立場になっちゃう。未成年の時の方が気軽だなと思う。
- 成人して個人に全部責任が求められるから「ちゃんとしなきゃ」という思いはある。羽目を外せない。

#### イ 好きなこと・やりたいことができた

やりたいことだけをやれた、バイトや部活など好きなことだけをできたなど、未成年の方がやりたいことができたので良かったという意見がありました。

#### 【ヒアリングでの意見】

- やりたいことを好きなだけやれた。「未成年のうちに好きなだけやっておきなさい」と言われていた。アルバイトはしなきゃいけないかったけど、遊びに行きたい放題だった。やってみたいことに親がお金を出してくれたこともある。
- バイトしたり部活に打ち込んだり、自分の好きなことだけをできた。
- (未成年は)まだ遊び惚けていられる。高校卒業から20歳までもっと遊んでも良かったと思う。
- なにも考えずに遊べたこと。なんでも「遊び」にもっていった。遊んで、学校に行って、みたいな楽しいイメージ。でも「早く成人したいな」という気持ちの方が強かった。

#### ウ 「10代ブランド」

10代までは「若いのにすごい」と評価してもらえた、「10代であること」の価値があったなど、「10代ブランド」があったことが良かったという意見がありました。

#### 【ヒアリングでの意見】

- 「10代ブランド」はすごく大きかった。中学生の頃から所属団体の活動として人前で話す機会があり、「10代なのに立派に話せてすごい」みたいな反応が多かった。10代の時と20歳になってからで全然反応が違う。20歳になると、「大学はどうですか?」「将来どうするんですか?」という反応になった。
- やっぱり「10代」ってこと。成人してできることが増えたのは嬉しいが「20歳になっちゃったんだ…」という気持ちもある。心配と楽しみの両方がある。

#### エ その他

その他、未成年の割引があったのが良かった、進路や将来のことを自分で考えなくて良かった(親が考えてくれた)、成人して社会人になってからは「ゴール」がないなどの意見がありました。

#### 【ヒアリングでの意見】

- 色々な料金に未成年の割引がある。「高校生」「大学生」「社会人」という区分もあるが、20歳で区切っている場合も多いし高い。
- 将来のことを考えなくて済んだ。子どもの頃は「大人の方がいいな」と思っていたが、いまは子どもに戻りたい。中学受験をした時は「親の意志」が強く、自分で考えていなかった。いまは進路を自分で考えないといけない。よし悪しはともかく、なにも考えなくて済む、という特権があった。
- 成人して社会人になってからは「ゴール」がない。「これができるようになりたい」、「ここまでがんばろう」と自分なりに目標を立てれば良いと思うけど、大きな枠でみると終了点がない。そういう時は本当に高校生、大学生の頃は良かったな、楽しかったな、と思う。
- 20歳になると体の衰えがくる。10代は「若いな」と思う。青春だなと思う面もあるが、痛々しいなと思うところもある。

## (8)あなたが「成人」して困ったこと、現在困っていることがあれば、教えてください。

主な意見は以下の通りです。

- 成人して必要になる年金、契約、行政手続きや相談先についての情報・知識がなく、情報・知識を得られる機会がない(十分ではない)
- 年金保険料の支払いなど将来に向けて経済的な不安がある
- いま経済的に困っている
- これから働くことや就職することが不安である

### ア 情報・知識が不足している(選挙、行政手続き、年金、契約、相談先 他)

選挙や役所での手続きを教えてもらう機会がなかった、年金や契約について知識がないまま 20 歳になって「お客様」になってしまう、大学では契約トラブル等について学ぶ機会がない、困っていることがあってもどこに相談したらいいのか分からない、社会人マナーが分からない、選挙が分からない、年金制度だけでなく具体的な手続きを教えてほしい、20 歳から年金加入することを知らなかったなど、成人として必要な情報や知識が不足していることで困っているという意見がありました。

#### 【ヒアリングでの意見】

- 選挙や役所の手続きは誰も教えてくれないまま 20 歳になって、社会からは「知ってるでしょ？」と扱われるが知らないことが多い。
- 自分自身はほとんど中学校に行っていなかったが、政治や社会に関心があり、ネット環境も整っていたのでネット上の記事などを自分で調べて学んできた。選挙や年金・契約の手続きについて、必要な知識がないことが困りポイント。20 歳になると何も知らないのに急に「お客様」になってしまう。社会に出てから身につける、という前提なのかもしれないが、20 歳前後がターゲットになりやすいので実際に被害が出てしまう。知識がなくても契約できてしまうし、効力はもつことになる。知識を得る機会が偏っていることは困りポイントだと思う。もうちょっと「移行期間」がほしい。大学では契約トラブル等について学ぶ機会はないので、知らないまま社会に出る人もいると思う。
- 行政や公的機関の手続きが分からない。一応自分で調べてみるが、言い回しが難しくて分からないことが多い。テレビを見る習慣がなくてニュースも見ないから行政のことがよくわかっていないのかなと思う。学校で学んでも分からないことが多い。年金のこともどこに相談したらいいのか分からない。こちらの生活状況によって対応が違うだろうし、誰に相談したらいいのか悩む。相談した相手によっても答えが違ったりすると相談してさらに悩むことになりそうで「もういいや」と思ってしまう。
- 社会人のマナーは高校とかでは教えてもらえない。企業訪問するときのマナーや服装が分からない。高校では就職面接の仕方など会社に入るまでの準備はしっかりやってくれるが、社会人になってからのマナーが分からない。
- 選挙は全然分からないし、行っていない。高校で模擬選挙をやったがあまり関心がなくて、投票できるようになった実感もなくて、ほんとはダメなんだけど参加はしてない。行ってみようと思わな

い。

- 年金の手続きを知らない人もいる。学校で年金制度を教えるだけでなく、具体的な手続きも教えてもらえるとう難い。大学には校内に相談できる窓口があるが、専門学校はないところが多い。
- 年金のことは学校で習ったイメージがない。20歳になって急に言われて、「なんだ、これ？」ってなった。20歳を区切りに変わることは教えてほしいなと思った。
- 住民票をうつしてないので年金の通知は来ていない。成人したら案内が来ることも知らなかった。全員加入しなきゃいけないっていうのはイヤだなと思う。

## イ 経済的に不安がある

年金が払えなかったらどうしようという不安がある、収入は増えないのに支払うお金が増えてしまうのが辛い、年金や保険料などこれから払うお金が増えていくことが不安、保険のような将来への投資に使うお金があるか不安など、経済的な不安があることに困っているという意見がありました。

### 【ヒアリングでの意見】

- 年金は「どうやって払ったらいいのか」と「払えなかったらどうしよう」という2つの不安がある。保険料を支払ってもどうせ年金はもらえないから貯金もしなきゃ、とか、もらえないのに払う意味あるのかな、とか色々考える。免除してもらえる制度があっても、後から一気にドーンと支払いが来たら支払うのは無理なんじゃないか、と不安を感じる。これから正社員になってボーナスをもらうことをあてにしている。大きな病気になったらどうしよう、という不安もある。収入は増えていないのに払うお金だけが増えていってしまうのが辛い。結局はがんばるしかない。
- 年金の通知が届いて、「ああ、いまから年金を払い続けるのか」と思った。これから保険料とかも自分で払わないといけない。がんばって働かなきゃと思った。これから就職して払うお金が増えていくことを考えると「大丈夫かな？」と思ったりする。
- どの保険に入ろうか迷っている。保険という将来への投資に対して使えるお金が自分の財布にあるかという経済的な面での不安がある。親の庇護から抜けるという意味ではやっぱり「お金」。保険と貯蓄。親は「まあ、好きにしま」っていう感じだと思う。友達や同期とは話すが親とは話したことはない。

## ウ 情報・知識を得る機会が不足している

親によって子どもの頃に経験することに差がある、情報を探す能力の有無でアクセスできる情報に差が生まれている、知識や経験がなくて選挙に行かない人もいる、19歳までは知らなくて良いとされてきたことが20歳になった途端に知っているべきことになり移行期間がないなど。情報や知識を得る機会が不足していることに困っているという意見がありました。

### 【ヒアリングでの意見】

- 親の教育水準が高い人は子どもの頃から選挙に連れていってもらったりする。そういう経験の有無の差は大きい。親の姿を見て、「大人」ってこういうことをするんだ、ということを感じてきた。親

がないとか、親によっては経験しないこともあるが、それは子どもの責任ではない。子どもの頃からの「差」があると思う。必要な情報にアクセスするためには「調べ方」を知っている必要がある。情報を目の前に置かれてもアクセスできる人とできない人がいる。知っている人だけがアクセスできて、知らない人はアクセスできないという格差を埋める責任は「大人」にある。

- 大学の同級生でも選挙に行く人を「意識高い」とバカにする人もいる。意思があって選挙に行かないなら良いが、知識がなくて分からない人、分からなくて困っている人もいる。政治に対する意識にすごく「格差」がある。19歳までは「知らなくていいよ」だったのが、20歳になった途端に「知ってるよね」になる「ラベルの張り替え」が一瞬。移行期間がない。啓発活動をやっても関心がない人は参加しない。

## エ 働くこと・就職についての不安がある

パワハラや残業など社会に出ることに怖いイメージがある、コロナ禍もあって就職できるか不安、20歳までは特に目標もなく将来や仕事について不安あった、自分が働いているビジョンが見えず就活が不安など、働くことや就職についての不安があるという意見がありました。

### 【ヒアリングでの意見】

- 社会に出る＝就職＝会社勤め、のイメージがあるが、会社での「パワハラ」、「残業」とかすごく怖い、心配だなという気持ちがある。コロナ禍で就職できるのかな？という不安もある。
- 20歳になった頃はやりたいことも漠然としか決まっていなかった。目指す職業はあったが、本当にやりたいのかな？と思っていた。20歳までは特に目標もなく過ごしていたので、「どんな大人になるんだろう？」「どんな仕事をするんだろう？」「楽しい仕事ってあるのかな？」と不安を感じていて、社会に対するイメージはネガティブだった。
- 経済的に自立していくことを考えると、まず就活が一番不安。こんな人間をどういう会社が採用してくれるんだろう、と思う。自分が働いているビジョンが見えない。毎日満員電車で通勤して、毎日同じことをする生活が普通にイヤ。未来が明るくない。
- 将来、ちゃんと就職しているかなっていう不安はある。

## オ 経済的に困っている

金銭的に困っているという意見がありました。

### 【ヒアリングでの意見】

- いま金銭面で困ってるけど、それはもう働くくらいしかない。最悪の場合、生活保護とかになっちゃうので働くしかないなと思っている。

## カ 「成人」イメージの世代間ギャップがある

「成人」のイメージが上の世代との異なりやりにくさを感じるなど、「成人」イメージの世代間ギャップがあることに困っているという意見がありました。

#### 【ヒアリングでの意見】

- 上の世代とお互いに認識がずれている。50代～60代は「成人」に対して「自立しててなんでもできる」というイメージがあって、そのイメージを押しつけられることがある。いまの18歳や20歳は違う考え方や価値観を持っているから、若者はやりにくさを感じていると思う。

#### キ その他／特になし

地方出身の新卒・若手社会人は相談相手がなくて困っている、高卒就職して仕事をやめる人も多いがサポートがなく困っている、困っていることは特になしなどの意見がありました。

#### 【ヒアリングでの意見】

- 新卒や若手社会人で、地方出身で一人暮らししている人は、家族にも相談できないし、職場の人にもなんか気が引けてしゃべれない、愚痴を言えないで1人で考えこんじゃう人もいる。責任感がある人ほど仕事をやめられない感じもする。そういう感じで困っている人がいるんじゃないかと思う。
- 成人して、自分の色々なリソースを活かせば家を出ていけるはずなのに、家にしがみついている人もいる。「成人」という区切りを活かしてできることもあるはずなのに、そのタイミングを逃して40代、50代まで家から出られなくなっちゃう人もいる。高校卒業して、仕事が見つからないとか、ちょっと思っていたのと違って仕事をやめちゃう子もいっぱいいると思う。18歳でサポートを切られてしまったら、その人たちは、どうしたら良いのか分からなくなってしまうのではないか。
- 成人してから困ったことは特になし。
- 困っていることはそんなにない。年金や税金をどうしようっていうくらい。
- 職場の先輩を見ていて、自分にも同じように仕事ができるだろうか、という前向きな不安はあるが、困っていることはない。

## (9)これから「成人」する人に、どのようなサポートが必要だと思いますか？

主な意見は以下の通りです。

- 契約、年金、社会保障など成人に関する情報・知識を得る機会の充実
- 身近なサポーターや相談相手や相談窓口
- さまざまな人と関わる活動やボランティアなどの体験・余暇の充実
- 就業体験や就活のサポートなどキャリア教育・就職に向けた取組
- SNS やスマホで完結できる相談窓口や発信など若者向けの情報提供

### ア 成人に関する情報・知識を得る機会の充実

契約、年金、選挙、社会保障、行政手続き、成人の権利やメリットについて具体的に分かりやすく伝えてほしい、成人して変わることについて高校でしっかり学ぶ機会をつくってほしい、一度きりではなく継続的に伝えてほしい、高校に通っていない人もいるので義務教育で学ぶ機会をつくってほしいなど成人に関する情報や知識を得る機会・教育の充実が必要という意見がありました。

また、18歳成年になると高校卒業～20歳までの猶予がなくなるので15、6歳頃から準備する必要があるなど、準備の前倒しが必要という意見がありました。

#### 【ヒアリングでの意見】

- 就職して、雇用契約するとき、保険の仕組みをちゃんと説明してくれなかった。自分で理解できていないのにハンコを押したから「承諾」っていうことになっちゃう。高校生世代に向けた分かりやすい発信があると良い。
- 契約する時に色々書類を渡されるが、目を通さない。いきなり本番で「はい、やってください」と言われてもとまどう。自分は親の姿を見て、契約ってこういうもの、というイメージを持っていたが、必ずしもみんながそういう親ではない。教育、学校教育の場で、「こういう契約があります！」という実演をやってみたら面白いかもしれない。
- 契約に関しては口頭だけでも契約が成立することなど、具体的に教えてもらえると有難い。
- 高校在学中に年金の制度など教えてもらえたら有難い。18歳から22歳くらいまでは青年期、モラトリアム期間で、人生にとって大切な時期だと思う。18歳成人でもすべての責任を負うのではなく、段階的に責任が出てくるような制度づくりや教育をもう少しちゃんとしてほしい。
- 年金の猶予の仕組みや払わないとどうなるか？は学生も知りたいと思う。
- 投票用紙になんて書いたらいいのか？等もう少し具体的に教えてほしい。
- 選挙や政治について考える機会が必要。自分はもともと興味があってTwitterなどSNSで情報収集していた。色々な考え方を知ることができる。授業で教えてもらって学ぶ、というよりは自分で調べるイメージ。高校時代にしっかり考えて学ぶ機会が必要だと思う。
- 選挙で自分が誰に投票するのか、という判断軸や思想、概念は自分の中にあつた方がいいと思う。人によって言葉にならないかもしれないけど、そういうことを考える機会があつても良い。選挙公報なども見方が分からない。与えられた情報のどこを見るのかを学ぶことも大事だと思う。

- 選挙権が18歳に引き下げられても投票率が低かったことで、若者が政治に無関心と言われるが、逆に、なぜ若者が選挙に行かないのか？想像してほしい。模擬投票など積極的に取り組んでいる学校がある一方で、そんな余裕がない学校もある。その「格差」を埋めなくて良いのか？声の大きい人の声だけが聞かれて、本当に支援が必要な人や知識がなくて選挙のことが分からず参加しない人の意見は反映されない。その悪循環をつくっているのは誰なのかな？と思う。
- 住民票など行政手続きが全く分からない。不利益につながることもあるのでしっかり伝えてほしい。生活保護など福祉の制度についても手続きをしっかりと教えてほしい。
- 高校では一般的なマナーを学ぶ機会がなかった。私の高校だけかもしれないが、学校に来られればOKという感じで、学校にはバスや電車のマナーが悪いとクレームが来ていた。「高校生だからしょうがない」と許されていたと思うが、18歳で成人になるとそういう訳にもいけなくなると思う。いままでは高校卒業から成人する20歳まで2年という時間があって、その間に分かったり、学んだり、身につけていくことがあったと思う。18歳成人になると、それはもう通用しなくなる。
- 選挙や年金の仕組みなど、成人してガラッと変わることで、できるようになることは教えてほしい。契約に関することも最低限で良いから教えてほしい。成人する前に学んだ方が「20歳になったらこれができるんだな」という自覚につながる。選挙や年金、契約について習う場所がないので、学校で学べると良いと思う。
- 「成人」になったらどんな権利が与えられるのか、教えてもらわないと分からないこともある。税金のこともいまだによく分からない。知らないことについて自分で調べようと思わないので、そこはしっかり教えてほしい。親の同意がなくても契約できる、開業できるなど若者にとってもメリットになっている。メリットや権利について、一度伝えたからわかっているはず、ではなく継続的に発信して伝えてほしい。
- 成人を18歳に引き下げるのは、大人が決めたこと。大人が決めたなら大人がサポートしてあげないといけない。学校の授業で取り上げる、放課後の課外授業みたいなやり方もありだと思う。最初は自分から参加する人は少ないと思うが、内容も考えながら、小学校の頃からやってもいいのかなと思う。高校卒業して18歳から20歳のあいだに大学などで一気にコミュニティが広がる。色々な考え方を知って大人になっていく、という意味で2年の猶予がある。18歳から逆算すれば15歳、16歳くらいからそういう機会を設けないと18歳成人はキツイと思う。
- めちゃくちゃ必要だと思う。高校で成人について学ぶ教育が必要。高校に通っている人だけではないが、まず高校の授業で成人についてもっと詳しく扱うべきだと思う。
- 知識や情報の格差を埋めるためには一律の教育が必要。社会科で1時間とかではなく、もっと身につくような実践的な内容をやってほしい。選挙、年金、契約、社会保障、福祉など、知っていれば困らないことを知らないから困っている人がすごく多い。格差が広がらないように、中学卒業や高校中退ですぐに社会に出てしまう人もいるので、義務教育で教えることも必要ではないか。年金のことも「どこの窓口に行けばよいか」というレベルで教えてほしかった。

## イ 身近なサポーターや相談相手・相談窓口

自分自身は18歳～20歳は準備期間のような位置づけで親のサポートを受けていた、社会人になって環境が変わると相談できる相手を見つけることが難しい、相談窓口がもっとあってほしい、相談窓口などの情報を知っている人が近くいるとよい、働きはじめるときは不安だらけなので「声かけ」などのサポートがあるとよいなど、身近なサポーターや相談相手・相談窓口が必要という意見がありました。

### 【ヒアリングでの意見】

- 自分の経験をふりかえると、18歳から20歳は成人の「準備」みたいな意味があったかなと思う。当時は煩わしかったが、もし、はじめて賃貸契約する時から親の同意が不要だったら、部屋選びの基準や契約の注意点、ローンの組み方を親から学ぶことができなかつたかもしれない。ただ、18歳成人になるからといって、じゃあ学校教育でそこを学びましょう！っていうのもなんか違う気がする。実際に社会に出てやってみたらいいと思う。
- 「学校」というしっかりした体制の中にいるうちに、学校を通して外部の支援者とつながっておかないと、社会人になって、学生時代とは環境が変わった時に相談できる相手がいなくなってしまう人もいる。ネットワークづくりも必要だと思う。自分で頼れる人を見つけることは大事で、それができる人はいいが、そうではない人もいる。「先生」という大人が周囲にいる間になにかネットワークづくりみたいなことをやっておけると良いと思う。
- 相談窓口がもっとあってほしい。相談窓口などの情報を知っていれば困ったときに行けるし、知っている人が近くにいれば、「こういうところあるよ」と情報提供できる。公共の相談窓口を知らなくて、ネット上の有料相談サイトなどにつながってしまいトラブルになることもある。公共の相談窓口などのせっかくの資源を活かせるようにしたい。
- 社会人になった時やアルバイトを始めた時、常に気にかけてほしい訳ではないが、たまに、「どう？慣れた？」「わからないところある？」といった声かけによるサポートがあると良いかもしれない。アルバイト経験があると「やったことあるからわかるでしょ？」と言われることもあるが、やっぱり分からないこともある。友人から、職場の先輩からの当たりが強くて、質問しても教えてくれない、とよく愚痴られる。そういうことがあると仕事を辞めたくなったり、「ここに居たくない」「死のうかな」と思ってしまうりする人もいる。死ぬより仕事を辞める方が良い、とアドバイスしているが、職場の雰囲気は温かくないと一人で抱え込んでしまいがちになる。特に、就職したばかりで分からないことだらけ、不安だらけの頃は少しでも気にかけてくれる人がいると良いと思う。

## ウ 体験・余暇の充実

18歳成人で責任が増えるだけでなく遊びやボランティアができる「余裕」をもてる環境づくりが重要、青少年のための公共施設など家庭環境によらず社会体験や人との関わりができるようにしていきたい、学校教育だけでは限界があるので学校外のコミュニティの人と触れ合う機会が大事など、体験や余暇の充実が必要という意見がありました。

#### 【ヒアリングでの意見】

- 18歳成人で責任だけが増えるのではなく、若いうち、時間がたくさんあるうちに色々なアルバイトやボランティアをする、たくさん友達と遊ぶとか、そういった「余裕」のある環境が重要だと思う。
- 課題を抱える子どもの支援に関わっている。親の学歴や価値観によって、子どもの「やりたいこと」や「ありたい姿」もすごく影響される。青少年施設のような場所に来ることで、社会の広さやいろいろな大人がいることが分かる。それを知らずに成人してしまうのはもったいないと思う。キャリア選択や生きていく上での選択肢の乏しさを広げるサポートをしたいと思っている。
- 最初はちょっと無理やりでも動き出すきっかけを与えることが大事。新しい人と出会う機会や場をつくっても参加するのは興味・関心・意欲がある人に限られる。学生時代に若者団体の活動に参加していて良かったと思うのは、色々な人と出会って、話を聞いて、色々な考えに触れることができたこと。そういうきっかけがいまの若い人にはあんまりないと思う。自分の人生には全然関係ないような人の話や一見無駄な情報も、意外と役に立つことがある。自分自身は20歳である人に出会って、より多くの大人たちと関わるきっかけになった。自分の人生のターニングポイントだった。18歳でも20歳でも学生は大人よりもコミュニティが小さい。別のコミュニティの人と触れ合う機会が大事。学校の授業だけでは限度がある。高校時代、部活だけやってきた学生とボランティアしてきた学生では意識が全然違う。どうやって意識を持ってもらうか、道徳とはまた違うプログラムが必要かなと思う。

#### Ⅰ キャリア教育・就職に向けたサポート

中学校の職業体験のような取組が高校でもあるとよい、高卒で就職するときの会社選びでもっとアドバイスがあった方が良かった、高校のキャリア教育で具体的な将来像が描けるようなプログラムがあるとよいなどキャリア教育や就職に向けたサポートが必要という意見がありました。

#### 【ヒアリングでの意見】

- 中学校の職業体験のような取組が高校にはなかった。高校でも就職するまえに会社の雰囲気を知ることができる機会があると良い。「働くこと」のイメージも中学生と高校生では変わってくる。高校のカリキュラムとして会社や職場の雰囲気を知る機会があれば、仕事選びの考え方も変わるような気がする。就職活動して社会人になって、いざ働き始めたら分からないことだらけで、雰囲気も想像と違ったりする。思ったより良いところもあれば、想像と違って怖いところもある。事前に分かっていたら、心構えができて、気持ちの持ちようも違ってくる。社会人として働いていく上で責任をもたなければいけないことも増える。仕事ってどういうことなのか、どういう場所なのかを知っておけると良い。
- 就職先の選び方などはもう少し掘り下げてほしかった。自分のやりたい仕事を職業にすることは夢のまた夢だったので、夢を追いかける以外の仕事の選び方をもう少し掘り下げてから仕事を決めた方が良かったと思っている。
- 高校生のキャリア支援でなにをしたのか覚えていない。「こういう風になりたい」が想像できるようになるカリキュラムがあるといいのかなと思う。もうちょっと身近に感じられる内容だと良い。

## オ 若者に向けた情報提供

Twitter などSNS上で完結できるような相談・情報提供の仕組みがあると良い、若者向けの情報提供は窓口よりもスマホなどを活用した方が良いなど、若者に向けた情報提供が必要という意見がありました。

### 【ヒアリングでの意見】

- いまの時代だったら SNS や Twitter で宣伝したり、Twitter 上だけで質問のやりとりができたり、そういう感じが良いと思う。自分が使っているのは Twitter、インスタ、LINE の3つくらい。調べたいと思うきっかけが Twitter、ということも多い。軽く調べるときは Twitter、きつと調べたときは Google という使い分けをしている。
- 若者に情報提供するなら窓口をつくるよりもスマホで質問できるようにした方が良い。世代に応じて手法もどんどん変えていかないといけない。スマホが当たり前の生活をしていると「窓口に行こう」という考えにならない。スマホでの調べ方など世代にあわせて手法で寄り添い方を模索していかないといけない。情報リテラシーを教育していくことが大事。

## カ その他／特になし

自動車免許取得費用への金銭的なサポートがあると良い、成人しても 18 歳なので期待しすぎない方が良い、などの意見がありました。

### 【ヒアリングでの意見】

- 自動車免許をとる時に金銭的なサポートがあったら取りに行きやすい。
- 成人したといっても 18 歳。そこまで期待しすぎない方が良いと思う。
- 相談しても結局やらなきゃいけないのは自分。相談しても相手によって答えが違うこともあって、なおさら分からなくなってしまうので、結局自分でやってしまうことが多い。相談はするけど、いま以上に何かやってほしいとは思わない。児童養護施設出身の子どもを支援するNPOとつながっているのでも、使えるサポートは使って、お願いできることはお願いしている。困ってはいない。

(10)成人年齢が「18 歳」へ引き下げられることについて、あなたはどのように感じていますか？

主な意見は以下の通りです。

肯定的意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 実態にあっている</li> <li>● 若者の意見が取り入れられる機会が増える</li> <li>● 自己決定権が拡大する</li> <li>● 選挙権に合わせた方が良い</li> </ul>
否定的意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 社会の準備が整っていない</li> <li>● 18歳の若者の準備が整っていない</li> <li>● 社会について学ぶ機会や時間などの「猶予」がなくなる</li> </ul>

■ 肯定的意見

ア 実態にあっている

これまでは現実と法にギャップがあったので実態に即した民法改正だと思う、18 歳で働いている人や就職する人には「成人」の肩書が必要など、実態に合っているので良いと思うという意見がありました。

【ヒアリングでの意見】

- 実体験として現実に即した民法改正だと思う。自分の経験としても、これまでは法と現実ギャップがあった。18 歳になったら親元を離れるなど選択肢や世界が広がるタイミングで、選べるようになるが親の干渉も入ってくる。親の価値観ややり方を知る勉強期間ではあったかもしれないが、「やりたいけどできない」というフラストレーションの方が大きかった。20 歳で親の干渉から解放されて、より自分がやりたいことが自分の意志でできるようになる。経済的に自立するのは大学卒業して就職した 22 歳頃なので本当の意味での自立は 22 歳になった時だったと思う。「経済的な半自立」と「精神的な自立」のタイミングが 18 歳で揃うという意味では「成人」の価値がこれまで以上に大きくなるのではないか。
- 高校生までは小さなコミュニティで生活している。人によっては 18 歳で就職するので、「成人」という肩書が必要になる部分もあると思う。18 歳の社会人は大人から「まだまだガキじゃん」という言われがちだけど、18 歳成人になれば、「もう大人じゃん」と認めもらえるきっかけになるかもしれない。そういう意味では良いと思うが、18 歳成人に向けた勉強はもっと必要だと思う。
- 高校卒業して就職している人もいる。18 歳へ引き下げられても、働いている人は働いているし、大学へ行っている人は行っている。働いて、お金を稼いでいる 18 歳もいるので、引き下げも良いと思う。「働く」という意味では良いこと。高校卒業したばかりで、ヘラヘラしている人もいれば真面目に生きている人もいる。それは 20 歳でも同じことだと思う。
- 18 歳で選挙権を渡すなら、それにあわせて成人というのも悪くない。18 歳で社会人になる人にとっても「成人」という肩書があった方が良い。

## イ 若者の意見が取り入れられる機会が増える

若者が自分の意志で行動するきっかけになるのではないかと、選挙や投票に関心をもっている若者も多いのでより多くの意見が反映されるようになるのは良いこと、若者向けの政策が増えて間接的に自分にもメリットがあると良いなど、若者の意見が取り入れられる機会が増えるので良いという意見がありました。

### 【ヒアリングでの意見】

- 「なんで 18 歳になるのかな？」と思っていたが、今回のヒアリングに向けていろいろ考えてみて、18 歳成人でもいいなと思えてきた。高校から大学への区切りになるし、若い人がちゃんと自分の意志で行動できるきっかけになるのではないかと。ただ、高校卒業前後のタイミングなので、親の力がすごく働くのかなと思う。子どもが成人したら親が離れるかということ、親が子離れしないのかなと思う。そういう意味では、20 歳成人と 18 歳成人はまったく違うと思う。
- 全体的には良いと思う。選挙や投票について「最近の若者は…」と言われることもあるが、実は関心を持っている若い子も多いと思う。より多くの人の意見が反映されるようになるし、どちらにしても参加しない人は参加しない。参加する積極的な人の意見が反映されることは良いと思う。
- 良くも悪くもフレッシュな感じになると良い。18 歳成人になって、より若者向けの政策が増えて、間接的に自分も恩恵を受けられたらいいなと思う。

## ウ 自己決定権が拡大する

社会的養護で育つ若者にとって賃貸契約ができることなど大きなメリットがある、親を頼れない若者にとっては救いになる、若いころから自分の責任について考える機会が増えるのは良いこと、自分で選んで自分で決められるようになるのは良いこと、若者の権利拡大によって経済も社会全体も活性化するのでないかなど、自己決定権が拡大することは良いことであるという意見がありました。

### 【ヒアリングでの意見】

- 良い部分としては、養護施設出身の人が 18 歳で施設を出ないといけない時に、親の承諾がなくても賃貸契約ができること。親の承諾が得られなくて困る人もいたので、それがなくなるのは良いと思う。親を頼れる人は頼ればいけれど、親を頼れない人はどうしたらいいのか？という話で、その問題がなくなると相当楽になると思う。親を頼れない人が 18 歳で自立する時に本当に助かると思うし、虐待を受けていたとか、そういう人には「救い」になる。親を頼れない人はみんな早く「成人」になりたいんじゃないかと思う。親の同意ほど面倒なものはないが、親の同意ほど大事なものもないと思う。自分の責任の重さを感じたし、自分の場合、同意書もらったから親には迷惑をかけられないからがんばるしかない、という糧になった。
- 2 歳の違いだけど、若いうちから自分の責任について考える機会が増えることはすごく良いことだと思う。現実として、大学生だったら 18 歳でも 20 歳でもそれほど変わらないと思う。年金とか制度的な面以外にはなにも変わらないのではないかと。未成年で飲酒している人もいたので、個人の考え方の変化が一番大きいと思う。

- 賛否両論あると思うが、自分で取捨選択して、自分でよし悪しを決められるようになるという意味では良いと思う。18歳で「おまえはもう大人だぞ」と言われたら、「大人」だから節度ある行動を心掛けようと思う人も増えるかもしれない。
- 選挙権も「早く18歳にすればいいのに」と思っていたので、18歳成人は良いと思う。経済も回るだろうし、色々な面で社会が活性化すると思う。

## エ 選挙権に合わせた方が良い

18歳選挙権に合わせた方が良いという意見がありました。

### 【ヒアリングでの意見】

- 賛成か反対かで言えば、賛成。江戸時代は14歳が元服、世界的に見ても18歳で成人するところも少なくないので、18歳成人でもおかしくない。選挙権が18歳なので、成人も18歳の方が良いと思う。学校でちゃんといろいろな教育をやってもらえるなら賛成。昔よりも大人になる上で覚えなければいけないことも多い。昔はこうだった、世界がこうだから、とかで日本もこうした方が良いというもの違うのではないか。

## ■ 否定的意見

### オ 社会の準備が整っていない

社会や大人側の準備ができていない、消費者被害についてなど十分な教育やサポートが整っていない、養育費も18歳成人に合わせられてしまうのではないか、親世代の意識は20歳成人のまま子ども自己決定を尊重できるのか、18歳成人にあわせて少年法が引き下げられるかもしれないが責任を負えるだけの知識を教えていないのではないか、など社会の準備が整っていないという意見がありました。

### 【ヒアリングでの意見】

- 子どもの側の準備も必要だが、社会や大人側の準備が全然できていない。制度を変えるだけ変えて、それに対する大人の責任は果たしているのか？と思う。十分な教育ができてない状況で、18歳成人が消費者被害にあったときのサポートなどは全然整っていないと思う。「18歳成人」自体は賛成だが、受け入れる側の準備ができていないことに対して「まだ早くない？」という気持ちはある。来年18歳になる人が100%知っている状況をつくれないうちは早いと思う。結果として困ることになったり、消費者被害にあったりするはその人たち。自己責任の前にはできることがもつとあると思う。
- 養育費の扱いもあいまい。20歳までなど年齢が決まっておらず、「大学卒業まで」とか「成人まで」とかケースバイケース。18歳成人になって年齢の定義がないままだと、「18歳成人だから養育費も18歳まででいいでしょ？」みたいなことが起こりそう。
- 親世代は「20歳成人」の意識が強いので18歳・19歳はまだ「子ども」という意識がある。親が子どもの自己決定を尊重できるかが難しいのではないか。

- 未成年の犯罪への対応はリスクがあると思っている。18歳成人になることで、それまで守られていた19歳20歳の人でも名前がさらされることになる。若い人にはその後の可能性があるはずなので、怖いと思う。でも、成人にはそれだけ重い責任があるということを実感してもらうには、大事なかもしれないが、責任を負えるだけの知識を教える機会がない。「知らなかった」が一番かわいそう。

## カ 18歳の若者の準備が整っていない

18歳だった自分を振り返ると実感が持てないと思う、選挙権についても18歳で判断の責任が取れるのか疑問、「普通の家庭」の18歳は人によっては成人の権利を行使する力量がないと思う、高校のような限られた世界しか知らない状態で成人になるのは怖い、精神的に未熟な人が「大人」を名乗ることで事故・事件につながるのではないかなど、18歳の若者の準備が整っていないという意見がありました。

### 【ヒアリングでの意見】

- 正直やめた方がいいなと思っている。18歳は高校卒業だが、その当時の自分に重ねて考えてみても、実感が無いと思う。なぜ18歳に引き下げるのかな？と思う。いままでずっと20歳成人で、そのイメージが強いからということもあるが、自分の中では「分からない」というのが正直な気持ち。20歳になって急に中身が変わるわけではないし、大学に行く人は22歳まで社会には出ないことが多い。18歳は進学する人も就職する人もいる。選挙権は18歳になって、選挙に関わる期間が2年増えたことで若い人が参加してくれるようになったのかもしれないが、その判断の責任がとれるのか？と考えると18歳はまだ難しいのではないかとと思う。
- 普通の一般的な家庭の18歳が「成人」になって大丈夫なのかという点、大丈夫じゃないと思う。学生気分ですら「やった！成人だ！自由だ！」という気持ちでバカなことをやらかしそう。人によってはまだそこまでの力量がないと思うので、本当にやめておいた方がいいと思う。
- 高校のような限られた世界・社会しか知らない状態で成人になるのは、それはそれで怖いというものもある。高校や大学卒業後、就職して社会を見る機会を経て成人する方が、意思決定するときの判断材料が増えてくる。しっかり学ぶ機会がないと難しいのではないかとと思う。渦中にいるいまの高校生はどこまで認識しているのかな？と思う。
- 無理があるんじゃないかと思う。精神的に未熟な人が「大人」を名乗ることで、事件や事故につながるのではないか。いきなり「成人」が増えることで、いろいろな制度がパンクすると思うが、そこは何か対策をしているのか？と思う。
- 飲酒・喫煙は20歳のままだけど、18歳で「おれたち／わたしたち、もう成人したんだぜ」っていうノリで事件が起こりそう。
- 18歳成人になってもお酒やたばこは20歳で変わらないが、「成人したから良いだろう」という考えで行動する人もいるのではないか。18歳で飲酒喫煙して、事件や事故を起こしたり、制度をちゃんと理解しないで行動したりする人も増えるのではないか。20歳から18歳になって変わったことや変わらないことを理解していない人が増えるのではないか。

## キ 社会について学ぶ機会や時間などの「猶予」がなくなる

これまでは高校卒業から 2 年間学ぶ機会や時間があったが 18 歳成人ではその猶予がなくなってしまふ、これまで 18 歳から 20 歳の「半・社会人経験」がないまま成人することになるのは怖い面もあるなど、社会について学ぶ機会や時間などの「猶予」がなくなるという意見がありました。

### 【ヒアリングでの意見】

- 高校卒業してすぐ「成人」って、ちょっとどうなのかなと思う。これまでは高校卒業してから 2 年間、就職したり、大学・専門学校へ行ったり、学ぶ機会や時間、「猶予」があった。高校卒業してすぐ成人となると、学ぶ機会も十分でない。それで「成人」って言うっていいのかな？と思う。自分自身で考えると、高校卒業してすぐに責任を負うなんて考えられない。そんな気持ちで成人したらすごく不安になると思う。18 歳から 20 歳までの 2 年間で色々学べたし、「成人したらこうなるんだ」と想像して準備する時間もあつたと思う。高校卒業して 18 歳で成人したら、学ぶ時間もない。高校のうちにすべてが身につくわけではない。「あなたはもう成人したから好きにやってください」みたいな感じで投げ出されるのは良くないと思う。本当に不安を感じて、困ってしまう人も出てくるのではないか。
- 高校卒業のタイミングで成人になると、これまで 18 歳から 20 歳までの 2 年間は学校に行ったり、バイトしたりして積んでいた「半・社会人経験」がないまま成人することになる。こわい面もあると思う。

## (11) 「18 歳成人」社会を迎えるにあたり、社会に期待することはなんですか？

主な意見は以下の通りです。

- 「18 歳成人」に向けた教育・サポートの充実
- 若者の声を聞いてほしい(若者からの意見徴取・反映)
- 「18 歳成人」に対する社会の理解促進
- 若者に対する社会の変化
- 「成年」制度の見直し

### ア 「18 歳成人」に向けた教育・サポートの充実

成人として求められる知識や責任について教育する責任が大人にあると思う、社会全体が 18 歳成人を受け入れる土台をつくっていく必要がある、無責任な若者が増えてほしくないので教育に力を入れてほしい、上の世代の経験や考え方を教えてもらいたい、社会人マナーなど高校では学ぶ機会がないので学校教育を充実してほしい、選挙や契約など親から学んだこともあるが親から学べない人もいるのでサポートしてほしい、成人して人とのつながりや出会いの大切さを感じたので高校生年代から色々な人との接点をもつ機会があると良いなど、「18 歳成人」に向けた教育・サポートの充実を期待するという意見がありました。

#### 【ヒアリングでの意見】

- 放っておいても「成人」になるけど、放っておいて「責任感」を持てる訳ではないし、年金制度を理解できる訳でもない。成人になるのにあわせて教育する責任が大人にはある。足りてない部分をそのままするのは責任感が足りていないのではないか。社会全体が 18 歳成人を受け入れる土台をつくっていく必要がある。18 歳が成人になる覚悟がないのと同じように、社会側も 18 歳成人を受け入れる覚悟や準備ができていない。準備して、均等に与える責任もある。福祉・教育などいろいろな分野で、成人全員に責任があるんだろうと思う。
- 無責任な若者に増えてほしくないのでもっと教育に力を入れてほしい。高校生はまだ「子ども」だと思うので、何が起るか分からなくて怖い。基本的に変化が嫌い。色々なシステムがパンクするのではないかと不安。そういうことが起こらないように準備してほしい。
- 上の世代からいろいろなことを教えてもらいたい。その人たちも子どもから大人になった間(あいだ)があるはず。その経験を話してくれたら、「こういう考え方もあるんだ」と学ぶことができ、自分のためになると思う。アルバイトでも、先輩が効率的なやり方を教えてくれて、それを自分が学び、後輩にも教えることができる。参考にするかしないかは自分次第だけど、少しでも考える幅が広がるのかなと思う。教員を目指して勉強しているが、「研究授業」といって自分の授業を先生に見てもらい、終わった後に助言をしてくれる場がある。その助言を参考にして、より良い授業づくりをしていく、そういうことが教員の世界にはある。若い世代にとっても、「どう思った？」とか、「こういう風にしたらいいんじゃない？」とか、フィードバックがもらえることは大事だと思う。
- 学校教育の充実。専門学校ではマナー研修とかをやってくれるが、高校卒業で就職する人には

学ぶ機会がない場合もある。職場以外で学べる機会もないので、もう少し会社が新人教育をしつかりしてほしい。会社でだんだん教育していくというスタンスが自分としてはありがたい。

- 18 歳成人になっても、急にいろいろ変わるわけではないと思うが、引き上げるならそれなりのサポートをしてほしい。選挙でも契約でも、親の力は結構大きいし、頼っていた部分はあると思う。いい方向に進むようにしてほしい。
- 成人して、どれだけの人に支えてもらえるか、どんな人と出会うかが大切だと思った。高校生の頃から色々な人と接点をもつ授業や仕組みがあると良い。
- 18 歳成人で社会人になる人もいるが、「18 歳だからしょうがない」「高卒だからしょうがない」っていうのはやめておいた方が良い。働く上で甘やかされて良いことはないと思う。本人のためにならないし、会社にとっても損害になる。18 歳で社会人になるなら、社会人の重みを知ってもらえるように負担をかけた方が良いと思う。

## イ 若者の声を聞いてほしい

「成年年齢を引き下げるのであればしっかり若者の声を聞いてほしい」、「若者が気軽に自分の意見を伝えられる「宛先」があると良い」、「意見を言う機会に恵まれている人以外の意見をどうやってキャッチするのが課題」など、若者の声を聞いてほしいという意見がありました。

### 【ヒアリングでの意見】

- 成年年齢を引き下げるのであれば、しっかり若者の声を聞いてくれと思う。もっと風通しを良くしてほしい。横浜は風通しが良い方だと思うけど、地域によっては若者の声が届かないイメージ。若者の声を聞くのが当たり前だと思うから、そこは期待したい。河野大臣がメールで意見募集したような感じで、若者が気軽に自分の意見を伝えられる宛先があると良いのかも。LINEなどつながれるツールを活用するのも良いと思う。あとは発信の仕方をやわらかく、親しみやすくすること。選挙の CM など啓発には若い世代のキーパーソンを起用することが重要だと思う。
- 「強制」のイメージが強いまま 18 歳にするとすごく印象が悪いと思う。当人も受け入れる側の社会や大人も関心がない人も「納得感」あってしかるべき。無視して 18 歳に下げちゃいけないと思う。
- 18 歳成人でも飲酒・喫煙・公共競技は 20 歳のままであることに対して反対意見の人も身近には多いような気がするが、そういう人の意見を拾い上げる機会はほとんどない。自分は積極的に意見を言う機会にも恵まれているが、拾えない意見をどうやってキャッチするかは課題だと思う。

## ウ 「18 歳成人」に対する社会の理解促進

「社会全体が『18 歳成人』の認識をもつ必要がある」、「制度を変えるのであれば社会の目も変えていく必要がある」、「大人だけが理解しているのではなく若者と大人で認識を共有した方が良い」など、「18 歳成人」に対する社会の理解促進が必要という意見がありました。

#### 【ヒアリングでの意見】

- 18歳で成人を意識するきっかけを増やすためには、社会が「18歳成人」の認識をもつ必要がある。「大人になれ」という一方で、「まだガキだ」といわれている感じでおかしいと思う。大人の権利を渡したのは社会の側。制度を変えるのであれば、社会全体がそういう意識を持たないといけない。そういう社会になることを望んでいる。若者は新しいことを受け入れるのも早い。若者に、「成人が2年早まるから、2年早くしっかりしなきゃ！」と思ってもらって、若者バッシングの対象になるような行動が減れば、社会の若者を見る目も変わりやすいのかもしれない。
- 「ゆとり世代」と言われることもあるが、その制度をつくったのはあなたたち大人の側。自分たちはその制度のなかで育っただけなのに、なぜ文句を言われるのかなと思う。制度をつくるのであれば、社会の目も変えていかないといけない。新しい制度がつけられて、その中で育つ側はなんで文句を言われてもわからない。
- 投票率の低さについて、なぜ低いのか？という理由を若者と大人で共有した方が良い。大人だけが分かっても変わらないと思う。Twitterでも「どうせ若者は投票しない」「投票しないのに文句だけ一丁前」などの投稿を見かけるが、若者にとっては「は？」という感じ。ギスギスしている。

#### Ⅰ 若者に対する社会の変化

「若者に対する寛容さ、寄り添いがある社会」、「社会参加したいと思っている若者が社会参加できるような社会」、「“大人になること”の価値が高まり、ひとり一人が自覚をもてる社会」、「若者が十分に権利を行使できる社会」など、社会全体の若者に対する姿勢が変化することを期待する意見がありました。

#### 【ヒアリングでの意見】

- 投げやりにならないでほしい。社会人として働くのはじめてで、長く働いている人とは違って知らないことだらけ。「なんでこんなことも分からないんだ」と思うかもしれないが、それを口に出したり、態度に出したり、「ゆとり世代」とか言わないでほしい。自分でそうたくてしている訳じゃない。分からないことを分からないと聞けない人もいる。もうちょっと寄り添って、関わってあげれば変わることもあると思う。高校の仲の良い先生みたいな気軽に相談に乗ってくれる相手が居たら、困った時に相談できる。会社でも、優しく接してくれたりしたら、打ち解けて、頑張ろうと思える。態度や意欲も変わってくる。投げやりにならずに接してくれたら、もうちょっと頑張ってみよう、働こうと思えるかもしれない。アルバイトの時は「できなくて当然」という扱いをしてくれるから、アルバイトの方が良かった、と思って仕事をやめてフリーターになる人もいる。職場でも最初はできなくて当然、ミスしても当たり前、みたいな感覚でいてくれた方が、ミスした時にも「次もがんばろう、失敗しないようにしよう」と思えるし、考え方も変わる。
- 自分のように、よく分からないまま「大人」になっちゃった人も困らない社会、積極的に社会に参加したいと思っている人が参加できるような社会になって、それが新しい力になればいいなと思う。ポジティブに良くなってほしいという気持ちと、それだけで大丈夫かな？という気持ちもある。
- 「大人」になることの価値が高まって、「大人」になることに対して一人ひとり自覚をもてる社会にな

ったら良い。18 歳成人によって「大人」の線引きがより明確になると思う。「大人」って難しい。「子ども」対「大人」ではなく、子どもの連続上に大人があるという認識。「自分は自立したんだ」というポジティブな意味と責任への自覚、18 歳がそういうタイミングと認識されるようになると良いと思う。自分もそういう「大人」になれるよう、これからもがんばろうと思う。でも「自分って子どもだな」と思いながら生きていくのかもしれない。

- 18 歳成人で「最近の若者は…」という論調が顕著になったらイヤだなと思う。若者は、やっぱり自信がないし、認められている感覚も薄い。「成人なんだから…」と言われると「成人だからってなんでもできると思わないでほしい」と思う。社会の風潮に対して若者が声をあげると、「成人だからってなんでもできると思うな」と権利を否定される感覚がある。若者も十分に気持ちよく権利を行使できるような社会だったらいいなと思うし、そういう社会にしていきたい。
- 大人だけど少しくらい失敗してもいいよ、という寛大な態度や余裕をもっていただけると有難い。

## オ 「成年」制度の見直し

成年に与えられる権利と責任について、段階的に権利付与する仕組みを提案する意見がありました。

### 【ヒアリングでの意見】

- 成人したから一律に全部の権利と責任を与えられるのではなく、18 歳、19 歳、20 歳と段階的に権利が大きくなる、というやり方もあると思う。みんなが学生というわけではないので、成人したばかりの頃は年金の保険料ももう少し抑えてもらいたい。

## カ その他

「通過儀礼としての“成人式”の継続」、「若者のうつ・メンタル不調を相談できる環境づくり」、「SNS を活用した若者向けの情報発信の充実」などの意見がありました。

### 【ヒアリングでの意見】

- これまでは「高校の卒業式」と「成人式」がそれぞれ節目になっていた。卒業式では「これからがんばります！」、成人式で「ここまでがんばりました。これからもがんばります！」みたいな感じだったが、18 歳成人で卒業式と成人式がほとんど同じタイミングになることで、「社会的儀式」みたいなものが減ってしまうのかなと思う。高校卒業後、大学や専門へ進学した人、就職した人などそれぞれががんばってきた 2 年間があって、成人式で再会し、「あの人はこういうことをがんばってきたんだ」「自分もこういうことをやってみよう」と刺激を受けていた。区切りとして「成人式」は大きいと思う。晴れ着姿を親や友達に見てもらうのも、その人にとっては大事な通過儀礼だったりする。
- 最近オンライン授業が増えて、大学生の鬱がすごく増えていると思う。自分も結構うつっぽいところがあるので、そういうことを気軽に相談できる場所がいろいろなところにあるといいなと思う。
- もっと SNS を使えばいいのと思う。ゲームや LINE、YouTube の広告など興味ない人たちにも嫌でも目に入るような媒体を活用して 18 歳成人で変化することや相談窓口など具体的な情報提供ができるとうい。Instagram の「おすすめ」に表示されるようにする等活用できると良い。

## (12) その他、ご意見やご要望などあれば、教えてください。

その他の意見・要望として、「選挙」、「社会的養護の仕組み」、「若者自身や活動」、「制度」、「18 歳成人」について、さまざまな意見がありました。

### ア 選挙について

「行ったことがある」「絶対ではないが行っている」「必ず行く」など、選挙への参加度合いは様々でした。「選挙や政治についてよく分からない・苦手意識のある人向けの情報発信があれば良い」、「住民票を地元から移しておらず投票のために地元に戻るの面倒」、「選挙は自分の興味・関心について考えるアイデンティティ形成の機会にもなる」、「投票結果よりも若い世代がしっかり見ていることを伝えることに意味があると思っている」、「投票したいと思えるような人がいない」などの意見がありました。

#### 【ヒアリングでの意見】

- 「行ったことがある」という感じ。候補者について 100%分かって投票しているというより「この人は安定性がありそう」という感じでしか投票していない。その程度の情報しか得られていない自分が悪いのかなと思う。もっと自分が社会に関心をもてば良いと思うが難しい。もうちょっと分かりやすく、「この政党はこうです」みたいな情報があればいいのと思う。自分と同じように分からない人がたくさんいるなら、分からない人向け・政治とか苦手だなと思っている人向けになにかあればいいと思う。分からないから選挙に行かない人は多いと思う。親からは「そのうちできるようになるよ」と言われるが、ならないと思う。
- 選挙には絶対ではないが行っている。あまり興味がないということもあるが、単純に一人暮らしをはじめた時に住民票を移していないため、選挙の時は実家に帰らないといけないので面倒。典型的な「選挙に興味のない日本人」という感じ。政治への興味とは、「こういう人に当選してほしい」という基準が自分にあるかどうか。自分の興味・関心に自覚があれば、自分と興味・関心が近い人に投票したいと思うようになり、アイデンティティ形成にもつながる。18 歳で選挙権をもつようになって、高校生のときに自分の中のアイデンティティを見出す機会が持てるのは絶対大事。20 歳よりも 18 歳の方が高校という場を活用した主権者教育のようなことはやりやすいのではないかな。
- 選挙に行ったことはある。ちょうど 18 歳で選挙に行けるようになったので行った。親から「18 歳になったから行くでしょ？やってみれば？」と言われて行ったので、誰がどうとか分からないままとりあえず行ってみよう、という感じ。その時は親に言われた人の名前を書いただけだった。
- 選挙には行く。自分の一票で何か変わるというよりは、若い世代もしっかり見ていることを伝える意味があると思っている。そういう意味で投票している。中高の同級生と政治の話をすることが多くなって、ちゃんと見るようになった。親は政治の全く興味がないので、自分の方が親に対して「選挙行けよ」って言う感じ。選挙や政治への関心は同年代でも分かれる。自分はその狭間に居たが、友人など周囲の影響が大きい。しっかり考えて投票することも大事だが、まず投票率をあげることが大事。

- 選挙には行く。別に行かなくてもいいが、住民票のある地元に戻る機会になるので、親の顔を見るついでに選挙に行く感じ。親は「行きなさい！」という感じ。周囲で選挙に行く／行かないは半々くらい。18歳成人で若者向けの政策が増えるのでは？という話をしたが、選挙では若者の投票率は低いままで、若者向けじゃない政策ばかりの状況は変わっていない。結局、若者たちが「じゃあもういいや」ってなって、投票率も上がらないだろうと思う。若者にすりよったマニフェストを掲げる政治家が出てきて、すごく有名になって、SNSで心をつかんで、若者向けの政策を出していったりすれば、その人に投票しよう！っていう若者が増えるかなと思う。結局、投票したいと思える人がいない。

## イ 社会的養護の仕組みについて

「児童養護施設で子どもを担当するケースワーカーをころころ変えないでほしい」、「高校卒業して児童養護施設を出るタイミングで関係性を切るのはやめてほしい。18歳になってこの先どうやって生きて行こうかという時に頼れる人がいることが大事」などの意見がありました。

### 【ヒアリングでの意見】

- 児童養護施設の子どもを担当するケースワーカーをころころ変えないでほしい。すぐに異動して引継ぎされる。良い人になってくれるならいいけれど、大変だったこともあったからできるだけ変わらないでほしい。担当が変わるたびに説明しなければいけないし、引継ぎしきれない部分もある。親とケースワーカーの関係性が大事なので、担当が変わってリセットされることで面倒なことになる。児童養護施設の子どもは誰もが同じように感じていると思う。
- 高校卒業して児童養護施設を出たからって、いきなり関係性を切るのはやめてほしい。18歳になったらもう兄相は関係ない、ということなのかもしれないが、一切連絡がない。施設も退所したらもう面倒みない、という感じはやめてほしい。1度や2度でも、アフターケアがあるだけでだいぶ違うと思う。「大丈夫そう？」くらいの声かけで良い。忙しいからしょうがないのかな、と思うと退所後は行くに行けない。意見箱があれば書いて送りたいくらい。親がいない子どもにとっては親代わりのような存在。18歳になって「さようなら」ってどういうことなのかと思う。18歳になって、この先どうやって生きて行こうか、という時に頼れる人がいることが重要だと思う。
- 児童養護施設の子どもを支援するNPOが開催するセミナーで、金銭管理、料理、住まいの選び方、面接対策など独り立ちの出だしのところを学ぶ機会があった。そのセミナーで出会った人には、その後も仕事のことなど相談していた。いま正社員の仕事を探していて、NPOの紹介で会社見学に行ったりするが、支援するNPOとつながっていないとその機会はない。それは大変だなと思う。高校卒業時にハローワーク経由で就職した会社がブラックだったので、ハローワークの求人でも安心しづらいかなと思う。

## ウ 若者自身や活動について

「専門学校や短大の学生はボランティア活動などに参加する機会が少ない。社協などの存在も知らないと思うので、ボランティアや地域活動の情報を得て申込までできるような仕組みがあると良い」、「自分はいろいろな人と出会っていろいろな考えに触れることで自分自身を変えてもらったので、若者には一歩踏み出してほしい」などの意見がありました。

### 【ヒアリングでの意見】

- 自分自身はNPOなどを通していろいろな活動に参加できているし、大学生は大学内のサークルやゼミでボランティア活動に参加する機会がある。でも専門学校や短大の学生はそういった機会が少ないと思う。社会福祉協議会などで紹介してもらえるとと思うが、そういった場所があることをそもそも学生は知らない。ボランティアや地域活動の情報を行政の窓口で単純に紹介するだけでなく、その窓口で申し込みができるような仕組みや機関をつくってもらえると本当に有難い。最初のきっかけをもう少し踏み出しやすくしてもらえると、活動も活発になるのではないか。
- 自分がどうありたいか？ということでもあるが、大人にはやっぱりしっかりしてほしい。自分は色々な人と出会って、色々な考えに触れるきっかけをもらって、自分自身を変えてもらったと思っている。きっかけは社会が準備するけど、その先は若者自身が考えないといけないと思う。若者にかぎらずみんなそうだが、一歩踏み出さないと変わらないので、一歩踏み出してみしてほしいと思う。

## エ 制度について

「公的な証明書で唯一性別欄がないのが免許証なので、トランスジェンダーにとっては絶対必要なものになっている」、「会社に属していなくても健康診断を受けれる仕組みにしてほしい」、「大卒でなくとも普通に働ける社会にしてほしい」などの意見がありました。

### 【ヒアリングでの意見】

- 免許証は公的な証明書で唯一「性別」欄がない。トランスジェンダー界限では、免許証がないと社会的に「死ぬ」と言われるくらい絶対に必要なもの。
- 会社に所属していなくても、みんなが健康診断を受けれる仕組みにしてほしい。
- 大学を卒業していなくても就職できる社会にしてほしい。大卒じゃなくても普通に働ける環境を平等に与えられたらいいと思う。どんな人でも働ける場所を提供できるようにあげられたらと思う。
- いまは会社や学校もオンラインになって、働き方もどんどん変わってきている。良い面もあるが、地域差があるのも感じる。どの地域でも同じようにネットが使えるように整えてほしい、という人もいる。

## オ 成年年齢引下げについて

「ゆとり教育のように負の遺産にならないか心配」、「当事者である高校生の考えや年齢での考えの違いもありそうで興味深い」などの意見がありました。

### 【ヒアリングでの意見】

- 自分自身は「成人」の大きな分岐点がなかったので、今回ヒアリングの機会であらためて考える機会になった。知っているけどあまり深く考えたことがないようなことがいっぱいある。18歳成人もそうだけど、日本は短期間で制度を変えようとするイメージがある。「ゆとり教育」も「やってみただけやっぱりだめだから変えよう」と切り捨てられた感じがある。「ゆとり教育は負の遺産」という扱いはなっているから今回の18歳成人も大丈夫かな？と不安感がある。
- 18歳成人を高校生自身はどう思ってるんだろう？高1と高3で思っていることにも違いがありそうで興味深い。

## カ その他／本ヒアリングについて

「定時制高校では消費者教育など実害が及ぶ知識を学ぶ機会は多かった」、「友達とは今回のヒアリングのような話はできないので楽しかった」、「同じ成人と言っても社会人と学生では意識が違う。いま働いている20代の話も聞いてみてほしい」、「成人に対する意識は性別によっても違うのではないか」などの意見がありました。

### 【ヒアリングでの意見】

- 夜間高校に通っていたので消費者教育みたいなことは結構しっかり教えてもらった。生徒の年代もバラバラなので、すべての年代に対応できるような教育プログラムがあったし、生徒のなかに被害者も加害者もいた。選挙に関する主権者教育はなかったが、実害がおよぶ契約や社会保障・福祉についての知識は全日制高校よりも学ぶ機会が多かった。経験しながら学べるようなプログラムだった。
- 友達とこういう話ができないので、普段思っていることを話せてすごく楽しかった。
- 同じ「成人」と言っても働いている社会人と学生では意識が全然違うと思う。いま働いている20代にも話を聞いてみてほしい。学生だと守られている感覚というか「ビニールハウス感」がすごい。
- 成人式でも、男性はほとんど準備しないが、女性はいろいろ準備が必要。成人に対する意識は男女でも違うのではないかと思う。ワークショップなどをやったら違いが見えてくるのではないか。

## 3. 調査結果のまとめと考察

### (1) 青少年の「成人」意識

#### ① 成人についての意識

- 「成人」を意識する場面やエピソードとして「成人式」や「誕生日」など「成人」として認められる経験や、「飲酒・喫煙」、「契約」、「仕事・活動への参加」などや未成年では制限されていた権利が行使できるようになっていたことで「成人」を実感したという意見が多くありました。
- 年金保険料の支払いや家計への貢献など、金銭的な負担をとまなう「責任」から「成人」を実感した人がいる一方で、ほとんど意識したことがない人もいるなど、家庭環境や生活状況による違いがあることも分かりました。

#### ② 「成人」による変化

- 成人したことで行動の自由や自己決定の機会が増え、「自分の意識」が変化したという意見が多くありました。行動や意識が変化したことで、人間関係や人との関わり方にも変化が生まれたという人もいた。また、社会から「成人」として扱われるようになり、社会からの評価や社会との関わり方など、「自分と社会の関係性」が変化したという意見がありました。
- 学生／社会人という属性の違いが大きいという意見が多くありました。「成人」として扱われる機会が増えたことで「意識」は変化しているが、実家暮らしの学生など経済的に自立していない人も多く、「もっと自立していると思っていた」というギャップを感じている人が多くありました。一方、飲酒・喫煙を通して開かれた新しいコミュニティや仕事、活動に参加できるようになったことで、人間関係や活動の機会が想像より広がったという意見もありました。

#### ③ 「成人」のメリット・デメリット

- 飲酒・喫煙、契約など年齢によって制限されていた行為ができるようになり、活動範囲が広がったことや自己決定の範囲が広がったことなど「権利の拡大」を成人のメリットとする意見がありました。
- 権利とあわせて自己の責任が拡大したこと、社会からの評価基準が厳しくなったことを未成年のメリット(=成人のデメリット)とする意見がありました。

### (2) 今後に向けた課題・ニーズ・提案

#### ① 支援ニーズの把握

- 契約や年金など成人として付与される権利・義務についての知識がなく困ったことがある、困っているという意見がありました。また、年金保険料の支払いができるのか、就職して仕事につけるのかなど、将来の自立に向けたさまざまな不安、特に経済的な不安を抱えている人もいました。高卒就職後、離職して安定した仕事に就けず経済的に困っているという人もいました。

- 家庭環境や学校教育によって生じている情報や機会の差を埋める取り組みが必要という意見がありました。SNS 等を活用した若者向けの成人に関する情報提供や身近な相談窓口の充実、ボランティアなど体験活動やキャリア教育、就職に向けたサポートの充実が必要という意見がありました。

## ②「18 歳成人社会」への問題意識

- 18 歳で自立する人にとっては実態にあっている、若者の意見が取り入れられる機会が増え、自己決定権が拡大することは若者にとって良いことなど肯定的に評価する意見がありました。
- 若者と社会の両方にとって「18 歳成人」に向けた準備が整っていない、18 歳から 20 歳という自立に向けた準備期間がなくなることで困る若者もいるなど否定的に評価する意見がありました。

## ③「18 歳成人社会」への期待

- 18 歳成人社会への期待として、若者自身に変化を求めるだけでなく、社会全体が「18 歳成人社会」に向けて変化していくことを期待する意見が多くありました。成年年齢が引き下げとなり、「成年」の権利や義務をもつ若者の層が拡大する一方で、制度変更について若者の意見徴取の機会が少ないことについて、もっと若者の意見を聞いてほしいという意見もありました。また、「成年」の権利や義務を段階的に付与するなど「成年」制度の見直しを提案する意見もありました。

## ④意見・要望

- 社会的養護のもとで育った若者から児童養護施設の運営体制や支援のあり方、社会的養護下で育つ若者に対する 18 歳以降の支援について意見がありました。児童養護施設から 18 歳で自立する若者にとっては、成人年齢引下げによってさまざまな権利が付与されることのメリットが大きく肯定的な意見が多かったです。他方、家庭環境によって成人に関する知識や情報が十分に得られないことから、家庭環境によらずだれでも必要な知識を身に着けられる仕組みが必要という声もありました。
- 成人年齢引下げと関連して選挙や政治についてもさまざまな意見を聞くことができました。参加の度合いはそれぞれ異なりますが、「十分に知識がない」「よく分からない」ために関心がないわけではないが積極的に参加できないでいる若者も多く、若者に向けた丁寧で正確な情報発信を求める意見がありました。

### (3)考察

本調査から得られた青少年の「成人」意識に関する知見について、次のように整理しました。

#### ①青少年の「成人」意識について

成人して間もない 20 代前半の青少年にとって、日常的に「成人」を意識する機会は少なく、「飲酒」「喫煙」「契約行為」の場面で、未成年では制限されていた権利を行使する経験を通して「成人」を意識する傾向があることが分かりました。

また、20 代は、未成年から「成人」となり、経済的自立も含めた「社会的自立」に向けてそれぞれが試行錯誤しながら生きている「移行期」であり、人によって学生・社会人など社会との関わり方が異なるため、成年(成人)／未成年を年齢で区切ることに對して違和感をもつ人も少なくないことが明らかになりました。

特に、高校卒業後、就職して働いている青少年と、進学して学生として過ごしている青少年の間では、「成人」であることのメリット・デメリットの捉え方も異なり、その人自身の家庭環境や生活状況、進路等が「成人」意識のあり方に影響を与えていると考えられます。ひとりひとりが異なる環境で育つ青少年の「自立」をひとつの「年齢」で区切ることの難しさがあることが分かりました。

その一方で、いずれの場合でも、高校卒業年代の「18 歳」を一つの区切りと捉え、18 歳～20 歳までの 2 年を「社会的自立に向けた猶予期間」として認識している人が多く、この 2 年間の社会経験を通過して学んだこと、経験したことが「自立」に向けた準備になっていたと感じている青少年が多かったです。猶予期間としての 2 年間(18 歳～20 歳)が無くなることに對して、「成人する準備が十分にできないのではないか」と不安を感じている声も多く、「成人」に向けた準備(猶予)期間をどのように確保していくかが課題であると考えます。

#### ②青少年が「成人」後に感じている課題・ニーズについて

ヒアリングに応えた青少年の多くが、契約や年金など「成人」として求められるさまざまな知識・情報について、自分自身が「十分に知らない」「必要な情報を得る機会がない」と感じていることが分かりました。こうした知識・情報については、親や家族、周囲の身近な大人から学んだという人が多く、必要な知識・情報を得る機会の多寡は、青少年が育つ環境によって差が生まれていると考えられます。また、特に契約行為や年金手続き等は身近な大人のやり方をそばで見ることや一緒にやってみることで体験的に学んだという意見や、分からないことを誰にどうやって相談したら良いのか分からないという意見もあり、知識や情報を提供するだけでなく、身近な相談相手や相談窓口を設けるなど、青少年に寄り添った支援が求められています。

「成人」の義務として求められる年金保険料など金銭的な負担については、経済的に自立している青少年にとって、より負担感が大きく、安定した仕事に就けていない青少年にとっては納付が難しい状況があります。猶予期間後に納付するためには安定した仕事を得て生活の基盤を整えることが必要であり、長期的に安定したキャリアを築いていくためのサポートが必要です。また、一般的な身分証明として使われることの多い運転免許証の取得にかかる費用を捻出することが難しい場合もあり、社会的自立に向けた支援の一つとして金銭的援助を求める声もありました。

社会的養護で育つ青少年など 18 歳で自立することを求められる人にとっては、成年年齢引下げによって携帯電話・スマートフォンや賃貸の契約を自分で行えるようになることは、自立へのハードルを下げる大きなメリットになります。その一方で契約によって生じる責任を、社会経験が少なく経済的にも不安定な 18 歳という年齢で背負うことのリスクも少なくないため、メリット・デメリットについての啓発や教育、身近な相談先の整備が課題であると言えます。

また、同じ 20 代前半という年代でも、学生がボランティア活動などさまざまな体験機会を得やすいのに比べて、社会人は参加の機会が限られており、「成人」して働いている青少年も体験機会を得られるようにしてほしいという意見もあり、働く青少年の活動ニーズの受け皿が必要だと言えます。

### ③青少年が期待する「18 歳成人社会」に向けた取組について

「18 歳成人社会」に対して、青少年の権利拡大という面から肯定的に評価する意見がある一方で、当事者である青少年や受け入れる社会のサポートなど準備が整っていないことに対する不安や問題意識から否定的に評価する意見もありました。

18 歳で「成人」となる青少年自身が、権利の拡大を前向きにとらえ、権利を行使することができるよう、青少年をエンパワメントし、権利行使について経験を通して学ぶ機会を提供すること、そして、親や家族、周囲の大人が 18 歳を「成人」として認め、権利を尊重するように青少年に対する意識を変えていくことが大切です。

また、権利の行使にともなう「成人」としての責任やリスクについても、青少年ひとり一人の家庭環境や生活状況によらず必要な知識・情報を得ることができるよう、教育機会や若者向けの情報発信の充実を図ることも、あわせて必要となります。社会経験が少なく、自立に向けた移行期の不安定な状況にある青少年が、18 歳で「成人」としての権利と責任を持つことについて、必要以上に不安を感じることや孤立して困難な状況に陥ることがないように、周囲の大人や社会が見守り、必要に応じたサポートを得られるように支援の仕組みを整えていくことが求められています。

最後に、ヒアリングの中では、2022 年 4 月から成年年齢が 18 歳へ引き下げられることについて、「成年年齢の引き下げを決定するときに当事者である青少年の声を十分に聴くことができていたのか？」という疑問の声もあがっていました。「成人」として 18 歳の青少年の権利を保障するためにも、青少年の声や意見を聞く機会を増やし、青少年施策をはじめ、社会の仕組みに対しても青少年の意見が取り入れられるように、青少年の社会参画を進めていくことが求められています。

なお、本調査の結果をふまえ、2021 年度に青少年の「成人」意識と成年年齢引下げに関するアンケート調査を実施予定です。

## 4. 資料編

### (1) 説明書

#### 青少年の「成人」意識に関するヒアリング調査 説明書

調査参加者 各位

ヒアリング調査について、以下の通り説明します。

#### 1. 事業名 青少年の「成人」意識に関するヒアリング調査

#### 2. 目的及び内容

2022年4月、約140年ぶりの民法改正によって成年年齢が現行の20歳から18歳に引き下げられます。法改正に関する啓発や消費者教育の取り組みが進む一方で、青少年自身が「18歳成人」という変化をどのように捉えているのか、「成人」に向けた準備や教育にニーズを感じているのか、など当事者の意識やニーズについては十分に把握できていません。

今後、「18歳成人」という社会的変化に応じた青少年育成施策の方向性を検討する基礎資料とするため、青少年の「成人」意識に関するヒアリング調査を実施します。

#### 3. ヒアリングでうかがいたいこと

青少年の「成人」意識について、ヒアリングにて、参加者に次の事項をうかがいます。

- ① 「成人」についての意識
- ② 「成人」としての生活状況
- ③ 「18歳成人社会」への問題意識・展望

#### 4. ヒアリングにより被る可能性のある不利益

皆さまに不利益をもたらすことが無いよう、細心の注意をいたします。調査中に不快な感情が喚起されたりする場合は中断いたします。質問やご意見等はどの段階でも受け付けております。

#### 5. 調査結果の公表

調査結果はよこはまユース情報誌やホームページでの報告を予定しております。公表内容等については、事前にご相談、確認させていただきたく存じます。

#### 6. 終了後のデータの処理

データは適正に保管・管理し、今後の研究のための基礎資料といたします。

#### 7. 個人情報の保護

個人情報の保護は研究者の義務と考え、厳正に管理します。

#### 8. 自由意志にもとづくヒアリング参加

ヒアリングに同意した後であっても、何らかの理由で中止を希望される場合、その時点で中断いたします。そのような場合であっても参加者が不利益を被ることはありません。

#### 9. 調査責任者

公益財団法人よこはまユース 事業企画課 尾崎万里奈

#### 10. 調査に関する連絡先

〒231-0011 横浜市中区太田町2-23 横浜メディア・ビジネスセンター5階

公益財団法人よこはまユース 事業企画課 尾崎万里奈

電話 045-662-4170 電子メール XXXXXXXXXX

## (2)同意書

### 青少年の「成人」意識に関するヒアリング調査 同 意 書

公益財団法人よこはまユース 代表理事 大向 哲夫 殿

#### 事業名

青少年の「成人」意識に関するヒアリング調査

私は、下記の事項について説明を受けました。調査の目的、方法等について理解し、自らの意志で、ヒアリング調査への参加に同意します。

2020年 月 日

署名

私は、自分のデータが、今後の研究のために利用されることに同意します。

2020年 月 日

署名

#### 記

##### 説明書の内容

1. 事業名
2. 目的及び内容
3. ヒアリング調査でうかがいたいこと
4. ヒアリング調査により被る可能性のある不利益
5. 調査結果の公表
6. 終了後のデータの処理
7. 個人情報の保護
8. 自由意志にもとづくヒアリング参加
9. 調査責任者
10. 調査に関する連絡先

以上

**青少年の「成人」意識に関するヒアリング調査報告書**

発行日:令和4(2022)年2月

発行:公益財団法人よこはまユース 事業企画課

所在地:横浜市中区太田町 2-23 横浜メディア・ビジネスセンター5 階

電話:045-662-4170